

令和3年 第3回全員協議会会議録

令和3年11月29日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 熊石国保病院の建替の進捗状況について（熊石国保病院）
- (2) 平田内川小水力発電会社設立に対する出資について（商工観光労政課）

○出席議員（14名）

議長	千葉 隆 君	副議長	黒島 竹満 君
	赤井 睦美 君		佐藤 智子 君
	横田 喜世志 君		大久保 建一 君
	関口 正博 君		宮本 雅晴 君
	倉地 清子 君		三澤 公雄 君
	牧野 仁 君		安藤 辰行 君
	斎藤 實 君		能登谷 正人 君

○欠席議員（0名）

○出席説明員（7名）

町長	岩村 克詔 君	副町長	成田 耕治 君
総務課長	竹内 友身 君	財務課長	川崎 芳則 君
熊石国保病院事務長	福原 光一 君	商工観光労政課長	井口 貴光 君
産業課長	吉田 一久 君		

○出席事務局職員

事務局長	三澤 聡 君	事務局次長	成田 真介 君
庶務係長	松田 力 君		

◎ 開会・議長挨拶

○議長(千葉 隆君) それでは、おはようございます。

それでは令和3年第3回全員協議会を開催いたします。議長挨拶は割愛します。

◎ 町長報告事項

○議長(千葉 隆君) 早速、日程の3、町長報告事項(1)熊石国保病院の建替えの進捗状況についてを議題といたします。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) おはようございます。

全員協議会を開いていただきましてありがとうございます。今、議長さんからお話があったとおり、この国保病院について私から説明させていただきます。

この件はですね、私が国保病院のですね、計画設計をやっている時点からですね、本当にこの45でいいのかということはずっと自問自答してまいりました。その中で計画設計が進み、さらにコロナということで、なかなか皆さんとも話し合いができない。さらにいろんな関係者と話し合いができないまま、たまたま無投票で選挙の当選をしたときにですね、今日、北海道新聞の来ていますけれども、決して北海道新聞さんの質問に答えたのではなくて、当時ですね、4人くらいいたんだよね。当選したときに。新聞社の方が4人くらいいて、いろんな質問がありました。その中で私が無投票で当選したというのと、ちょっと気持ちが高揚していたのか、もともと悩んでいたことを口に出してしまったということで、そのことをですね、北海道新聞社がこれは大変なことだということで大きく書いてしまったということで、これは皆に知られてしまったということで、本当は私の心の声でありました。しかしながらこういう事態になりまして、先日、熊石の連合町内会、さらにですね、敬愛会から、さらに国保病院の院長先生からも45床でということで、さらに要望されましたので、この件につきましてはですね、45床、19床という診療所ということではなくですね、45床も含めて、もう少しですね、時間をいただきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思っています。

○議長(千葉 隆君) 事務長のほうはないの。

それでは町長のほうから45床、19床ということではなく、もう少し病床数の関係、あるいは地域の状況も把握しながら考えたいというふうな報告を聞きましたけれども、このことについて皆さんからご質問があれば受けてまいりたいと思いますが。

○2番(佐藤智子君) はい。

○議長(千葉 隆君) 佐藤さん。

○2番(佐藤智子君) 今年の予算委員会で実施設計の予算が通ったわけですが、それは年度内には実施しないというお考えですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) その件についてもですね、もう少し考えてみたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○2番(佐藤智子君) はい。

○議長(千葉 隆君) 佐藤さん。

○2番(佐藤智子君) 私はやっぱり年度内に予算どおりやったほうがいいと思っております。答えはいいです。

○議長(千葉 隆君) 答えはいいの。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 佐藤議員さんの意見としてお聞きします。はい。

○11番(斎藤 實君) はい。

○議長(千葉 隆君) 斎藤議員。

○11番(斎藤 實君) 病院の、議会での取り組みなんかも、いろいろあるんですけども、それにつきましては町長のほうもよくご存じかと思いますので、あえてお話しはしませんけれども、ただ、やはり診療所になったときに住民の不安というのが、予想以上に大きいんですね。やはりそれだけ病院に対する信頼関係というんですか、地域住民が非常に頼り切っている病院であるということ。それからですね、人口減少にも相当大きく影響してくると。そして町自体の税収にも結び付いてこないんじゃないかと。逆に税収が減っていく大きな要因になるのではないだろうか。そしてまた急患対応なんかが非常に難しくなるんじゃないかと。これも私も隣町の診療所の状況を見ておいても、非常にそのところがネックになってくるのではないかと、このように考えているんですね。ですから、45床で確保をしてくれるように、町長にも再度またお願いしたいと思います。

議会の話し合いの中でもですね、特に今回45床に減らしても現在の入院収益、それは同等以上に収益確保が可能な病床数だということが45床あるいは50床くらいではないかなと。最終的に決まったのが45床であるということで、今後におきましても、町の持ち出しを大きくすることにはならないのではないかなと。このように考えておりますので、どうぞ前向きに45床を確保で、町長の中で検討してほしいなと思います。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 斎藤議員さんですね、お話を伺いました。本当にこの間、熊石の住民の皆さんから意見をいただきましたので、十分ですね、その辺も配慮しながら、もう少し考えてみたいと思っていますので、必ず診療所にするというものではありませんので、ご理解いただきたいと思います。

○11番(斎藤 實君) よろしく申し上げます。

○議長(千葉 隆君) ほかに。

○1番(赤井睦美君) はい。

○議長(千葉 隆君) 赤井議員。

○1番(赤井睦美君) 前回の文厚委員会の際に45床という基本構想・基本設計が出てきて、そのときの委員会の中で、遠い将来を考えたときに、45でいいのかという意見も出ました。だからその診療所、19床がいいのかわかりませんが、そういう方向に変えていくという考え方も必要

なんじゃないかという意見も委員の中から出ました。ですから遠い将来を考えたときには、そういう方法もありかという、そういうことも私たちの中では、たとえば3階のところを違った施設、包括ケア病棟をちょっと進んだものにするとか、そんな考えも入れさせてもらいたいという意見もあったんですけども、町長が、報道でしか聞いていませんけれども、診療所にするという、その先、いつの診療所かわかりませんが、その先のことを考えると、委員会の中に同じ考えの人もいたんですね、だけでもやっぱりすごく地域にとっては羨ましいくらい信頼されている病院で、こんなにたくさんの署名が集まるというのは、私はやっぱりあの感情を見て羨ましいなど。こんなに病院を残してほしいという人がいるんだということで、万が一総合病院が逆だったら何人来るだろうと私は非常に不安になるくらいに本当に羨ましかったです。

そういう信頼されている病院を診療所にするとか、45を19にするという最終的な決断するうえですね、すごく丁寧な説明がないと、ものすごい災害が起きて、お金がないから頼むというのであれば仕方がないとなるかもしれないけれども、今こんなに、潤沢にお金がありますと八雲町はいつも言っているの、そこをカットするのはどうしてなの。どうして熊石ばかりっていう感情になると思うんですね。ですから私は是非是非、国保病院、今日は国保病院がテーマですけども、なにごととも直接町民の方に関係のあることは丁寧に丁寧に説明して下さるといいなと思います。

そして、町民とともにやっていくことが一番いいことだし、ただ私は、今回のこの発言によって、国保病院がこんなに町民にとって信頼されている素晴らしい病院だと改めて知ることができたので、自分自身は本当に良い勉強になったと思うし、今後、私たちもみんなの意見を聞きながらきちんと町長とも丁寧に話し合いを進めながらやっていく必要があると思うので、是非、次の問題もそうですけれども、丁寧な説明をよろしくお願いします。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 本当に私が丁寧に説明しなかったのが一番の原因だと思っています。ただ計画設計を、たとえばまだまだ考え方はまだ煮詰まっていませんけれども、45でもし建てたととしてもそのあとの使い方ももう少し議論していかないと、今の計画設計のままだと病院でいくということでもありますので、その辺についても地域の方や議員の皆さんと、もう少し意見交換をしながら決めていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○議長(千葉 隆君) ほかに。

○7番(倉地清子君) はい。

○議長(千葉 隆君) 倉地さん。

○7番(倉地清子君) 多分その45床の病院ということで、決定されていたことを春からやるというふうに聞いていたものを、ここまで何も説明がないままという怒りは結構見て取れたんですけども。その心の声というのが出てしまうのがちょっとよくわからないのですが、そこをちょっと気を付けていただきたいのと、あとその怒ってしまっている町民の不安を、この先丁寧に考えていくということなんですけれども、不安を解消できるような明るい方向でいくと考えていいんですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) この心の声が出てしまうのは私も政治家でありますので、これは当たり前であります。ただ私も政治家であり、やはり町民に対する全責任をもって町政をしていますので、こ

れからの判断についても慎重に判断してまいりたいと、そういう思いであります。ただ熊石の人たちの不安というのは、これから話し合いをしながらどういう方向に持っていけるか、また議員の皆さんと話し合いをしながら決めていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思っています。

○議長（千葉 隆君） 倉地さんいいですか。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○5番（関口正博君） これですね、能登谷議員にしても斎藤議員にしても熊石の町民にしても、これは当然地元を守るといことで、これは当たり前のことだと思っています。しかし私はもっとこれは慎重な議論が必要だというふうに思っている一人です。

先ほど赤井さんが申し上げたようにこの病院というのは非常に地域にとっては大事な病院で、町民にとって大事というのはあるのですが、この今の現状の院長、また医療スタッフ、これは熊石にとっては本当に大変大きな宝だと思っているんですね。今、藤戸院長も本当に一生懸命、診療なかってこれだけの信頼を勝ち得た。しかし、どんどん歳を召してきて従来通りの働きがなかなか難しくなってくることも考えなければいけません。医療スタッフの負担というものも、これからの病院を考えると、これはやっぱりまず先に考えなければならぬ。町民のことももちろん大事ですけども、どうしても人口減少、これはスタッフが減少してくるのも間違いないですし、そういう意味においてはやはり医療連携というものはしっかりと考えなければならぬことで、熊石国保病院単独の問題ではないんですね。

ですから本当に慎重な議論が必要ですし、都市部に建てる病院じゃないですから。病床数の問題ではなくてあくまでも熊石の医療を将来に繋げるという議論だと思っています。ですので、ここで一回止めて、過去のいろいろなデータ等があるんですが、今までの20年と、これからの20年は絶対に大きく違いますので、ましてこのコロナ禍というものを経験した。病院建設のあり方もこれによって大きく変わってくるところもありますし、やはりここで一回立ち止まってしっかりと熊石の将来の医療について改めて考える。これは介護の面も、保健福祉の面も医療という部分じゃなくて、そういう部分もひっくるめたかたちで、私はいろんなことをもっとじっくりと考えたいと、それで将来的にきちんと熊石のためになるような病院建設を目指していきたいという思いでございますので、私はもっと議員、八雲側、熊石側も含めてですね、これ熊石の国保の病院の問題だけではなくて、将来八雲総合病院の問題というものをこれ話し合っていかなければならぬので、私は良い機会だと思っていますので、議員間でもっとしっかりとした議論が今回できればいいなと思っています。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 関口議員ですね、まさしくそのとおりだと思っています。ただ本当に熊石の国保病院ですね、熊石の住民の皆さんに安心させていくということがありますので、その辺きちんと、まずは熊石の人たちの安心をですね、まず●●しながら、さらにですね、関口議員さんがおっしゃっているとおりですね、私たちはこの総合病院は二次医療圏、長万部、今金、せたな、熊石も

含めて八雲総合病院を担っていくということになっていますので、地域の人口が減っていく中で、関口議員さんがおっしゃっているとおりですね、全体を見据えながらですね、この地域の医療は進めていかなければならないというのはいはもっともでもありますので、これからも議員の皆さんと議論を深めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにありませんか。

○12番（能登谷正人君） はい。

○議長（千葉 隆君） 能登谷議員。

○12番（能登谷正人君） あまり短気を起こさないで喋ろうと思っております。

皆に喋っているのが、意見を言っているのが、もうこれからのことであって、これまでのことについて皆さん考え方をしてないですね。それで先ほど町長も政治家だって言っていました。確かにそうかもわかりませんが、病院を建て替えるという政治家としての判断、これのここに、皆さんの資料1にあるように、令和元年6月までに、常任委員会等々で議論をしてですね、そしてこの6月から、2年の3月までに基本構想とか基本設計、そして医療ですね。これも本議会、議論して皆さんの了解を誰一人反対することなく町長の提案どおり成立したわけですね。

それと合わせて9月からは基本設計業務、これも予算等々も出て、さらにまた皆さん知っているとおりの厚い本になって表れてきたわけですね。それでここに2年、3年経った今日に、その間に町長がなんでそういう考えになっているのか、この2年、3年の間にね、時間が十分あったにも関わらず、政治家としての判断なら、ここはもう無投票に当選したからってすっかり舞い上がってしまった感じが我々もあるんですけども、議会に投げかけたものを、自らそこで変なことが起きた場合は別として、なにも起きていない地域の医療もそのままやってくれている、そういう中で政治家として判断したものを政治家として今、考え直すって、そんなのね、ありえない。政治家としてありえないこと。さらにまた人間としてありえないこと。これ俗にいう猫の目行政、猫の目行政、ころころころころ考え方が変わるようであれば、職員もついていけないし、我々議会だっとなんのために議会に投げかけてきたのよって、そういう強い思いもあります。

それで我々も一生懸命議論して、そしてそういう町長のいうとおりの結果を誰も反対することなく今日に至っている。すっかり無投票だからって本人が言った言葉ですからね。舞い上がってしまったと。心のどこかにあったならばね、途中でストップかけるのが当たり前の話じゃないですか。ここにきて予算も今年度の予算にやるって言って予算まで持っていくんじゃないですか。議会を騙すつもりでやったの。町民を騙すつもりでやったの。町長も政治家であれば、我々だって政治家の一端なんです。14人で。

ですから、ころころ変わるようなそんな心の持ち主ならば、私も信頼してついていけない。今まで何一つ反対したこともないのに。全部町長の上げてきたものは、全部皆さんで議論して、全て反対なんかなかったはず。それが3期目に入って、無投票で入ったら途端に言い出す。そんなバカな政治家っていないですよ。政治家なら政治家らしく腹をくくったらどうですか。

だから、3期目に入ったからじゃなくて、途中でおかしいなと思ったら令和元年度でも2年度でもストップかけるのが、ちょっと待ってくれと。ストップかけるのが当たり前なんじゃないですか。この間町民の税金を使って、何千万も使って設計したんでしょ。それで町民にも今回、病院を建て替えますって、もうそしたら途端にストップ。こんなね、政治家なんて、今の国会の議員には何

人かいるように見られるけれども、ここ八雲ではね、そういうことはやめてほしい。町民直接の町長であり、町民直接の議会議員ですから。

それで我々議会議員は町民の福祉を前面に押し上げて●●、ゆりかごから墓場までという、全体的にですけれども、そういうのを一町長に委ねて、そして我々14人で議論して、それでOKを出したものを、また繰り返しになりますけれども、考え直すという、そういう考え方はやめてほしい。やめるべきだと思う。そうでないと町長についていけない。なにもかにもこれから疑ってかかっていかなければならない。議論するにあたって。途中でこれ投げ出すんじゃないかと。いろんな問題があったでしょ。研修牧場だってみんな不思議に思っているけれども、町長がやりたいならいいじゃないかって。全部、大きい金額だって、ほかのものだって、みんな反対なんかなくて、皆さんOK出してやっているでしょ。

それで10年、20年後の医療等々って言うけれども、それは目に見えてるんですよ。ああいう田舎ですから。落部と違ってああいう限られた町ですから。これは目に見えてる。口に出さなくても。皆さん思っているんです。だけれども今が大切でしょ。そういう社会的弱い立場の人、あるいは体の弱い人の最後の砦なんです。ですからこの間の会議なんかでも町民との対話の中でも、ある議員に町民の人が質問したら、40分かかるよって。そうなんです。我々高齢者が運転すると45分から50分かかるんです。病院まで来るなら。だからそういうこともね、ちまちま言わないで腹くくってやるって言って、令和元年度にやったら政治家らしく最後まで押し通すべきだって。どうですか、この考え方は。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 能登谷議員さんですね、思いは十分理解いたします。ただ、私もずっとこの件は考えていたということですので、これは必ずですね19床の診療所にするということではありませぬので、もう少し住民の皆様、また病院とも意見交換をしながらですね、進めて行きますのでご理解をいただきたいと思います。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉隆君) 能登谷議員。

○12番(能登谷正人君) 町長のそういう先送りする、理解できますけれども、それ我々に考えさせると逃げの一手なんです。だからここで政治家らしく、今まで令和元年からずっとやってきたんだから、議論の尽くしようがないんだから、もう認めていいよって議会でもOK出して、町長の考え方がそれでOKですって言っているんですから。認めているんですから皆さん。大きな気持ちで、ここで先送りするんじゃないくて、この場で皆さんがそういうふうに言ってくれるのであればやりますよって力強い声を上げられませんか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 先ほど話しているとおりですね、これからの未来を見据えた時に、どんな熊石の医療体制が必要だと少し悩んだということでもありますので、ただ、能登谷議員さんがおっしゃっているとおりですね、熊石の皆さんの気持ちは先日聞きましたので、その辺、配慮しながらもう少し時間をいただきたいと思っております。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長（千葉 隆君） 能登谷議員。

○12番（能登谷正人君） 町長のもう少し時間をくださいというのは、どういう、なんか壁がありますか。だって、熊石の人口でも落部の人口でも八雲の人口でも、どこの町でもですね、増えているのは政令指定都市だけであって、どこの町でも人口は減っているんです。ここ八雲町本町だって減っていつているでしょ。特別、熊石だけが減っているわけじゃない。だから、なんか壁があるようで、このままいつもの、すばつという町長の判断力がなんか、この8年間一緒にですね、道や国にも一緒に歩いた中で、なんかここにきて、かなりダウンしている、なんか変だなと思っています。なんかバックに壁がありますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 壁はありませんけれども、ただ、この2、3年地域の熊石地域の人口減少というのが私は私の想像しているように、非常に速いなという意識があります。その原因の一つとして、やはり熊石地域の方も高齢になっていくとですね、子どもの近くに行くというのも人口減少に拍車がかかっているものと。さらに漁業の水揚げが少ないということも、想像より減っていますので、その辺もですね、自分が悩んだというのが大きな影響を与えたものと考えていますので。しかしながら先ほど言ったとおりですね、熊石の地域の皆さんの意見を聞きながらですね、もう少しだけ時間をいただきたいというのが私の願いでありますので、よろしく願いいたします。

○12番（能登谷正人君） はい。

○議長（千葉 隆君） 能登谷議員。

○12番（能登谷正人君） その言葉をですね、基本構想とか設計ができる前に、こういう考え方があったら十二分にわかります。自分が熊石出身だから言っているんじゃないで、町全体として皆さんも責任があるんですよ、議決した責任があるんだから。ここにきて反対する議員は誰もいないと思うんです。だってもう既に何回も議論して、常任委員会でもOK、なおかつ本議会では皆さん賛成で通っているんですから、議員だって議決責任がある。

今、反対だっていう議員がいたらね、何人か見られるけれども、ちょっとおかしいんじゃないのって。馬鹿かって言いたい。自分で賛成しておいて今になってから反対って。そんなね、我々町民と直接対応する議会議員、町長いわく、要は政治家なんです。だからその場でその場で逃げるんじゃないで、大きな気持ちで対応して最初にやるって決めたんだからやりますよって。そして議員の皆さんあんたたちも賛成してくれたんでしょって。ここでやりますって言うのがずっと町民の人も安心するし、我々議会も議決責任が何だったのよって。笑われますよ。我々が。町民の人たちに、あるいは周りの町村に。皆さんに笑われる。議会で何やっているのよって。

だから今回も、こういうふうにして町長がその思いを伝えたかったら、いろいろ手段があるでしょ。たとえば国保病院運営委員会とか、あるいは地域審議会とか。それから連合町内会とか。そういうところで個々に説明してきてね、そして皆さんの意見を聞いて、これだったら建てないほうがいいんだなっていう、そういう思いで、今日あるならいいんだけど。どこでもそういう会を開いたことがない。そこでも聞く声に耳を傾けなかった。だから要は、いきなり、さっきの話だけでも、これも舞い上がって喋ったものがって言うのもわかります。そういう気持ちになることは我々も選挙をやってきている身だからわかりますよ。

だけでも今後ですよ、町長が提案する案件に関しては、眉唾をひとつね、待てよって言って、考えて考えて答えがずっと先送りになる可能性、町長がそういう手法を見せたんだから。我々議会だって、これはまだ時期が早いよって、どんどん否決する、こういう方向に発展する可能性がある。100%あるんですよ。仲間を組んでやったら。だからそういうことになる前に、岩村町長らしく、それじゃあやってみようって大きな太っ腹でやってくれないですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 大変良い意見を、能登谷議員さんから意見をいただきましたと思っています。ただ計画設計でありますので、あくまでも計画設計の中でも、私はこの国保病院だけではありませんけれども、計画して議論しながら計画設計まで行ったとしても、この先これがですね、問題が大きくなるとかということであればですね、やっぱり変更もあるだろうと。この国保病院だけの話は今していませんから。そういうことを私はありえると思っています。ただ、今、能登谷議員さんから話がありましたけど本当だなと。本当にその地域審議会、町内会、この45についてもですね、私も話し合いをしていなかったなど。

○11番(斎藤 實君) 町長。言葉挟むけれども、地域審議会45床、報告していますよ。

○町長(岩村克詔君) いやいや、今、45床についてですね、真剣に意見交換をしていなかったことに反省をしています。でありますので、この件についてもですね、これは生の声でありませんので、その辺、再度ですね、12月に熊石の町内会の皆さんと話し合いを持ちます。更に審議委員会の委員会もありますので、その辺ですね、また地域から厳しい意見をいただきながら考えてみたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷議員。

○12番(能登谷正人君) ちょっと長くなりますけれども、皆さんに誤解のないように、先ほど、これからいろいろ出てくる案件に関しては、いろんなことを発言しましたけれども、これは脅かしとか脅迫でないので誤解しないようにしてください。我々、町民のためになることだったら、皆、是々非々でいきたいと思っていますので、これは決して町長を脅かすようなことは考えていませんから誤解しないでいただきたいと思います。

○8番(三澤公雄君) ちょっといいですか。

○12番(能登谷正人君) どうぞ。

○議長(千葉 隆君) 三澤議員。

○8番(三澤公雄君) 能登谷議員が興奮するのは十分にわかります。町長の今の、今日冒頭からのお話を整理してみようと思っても、そうすると令和3年度に実施設計予算を上げた根拠、これは町長の口から説明されたし、その議論に行くまでも丁寧な議会とも意見交換をし、議論を蓄積して出した答えなんですね。それをまったく反故にしてしまうわけですから、この反故にすることについて、まず丁寧な行政の中の段取りを踏まないで、これからいろんな提案されることが、正しく能登谷議員がおっしゃったように信用できないということになるわけですから。

これは簡単な議論ではないのではないかなということ。私はずっと考えていたというのであれば、なおさら45床提案したときに、この人は本心で言ってなかったんだということになって、今の町長の状況を認めてしまうとですね、本当に能登谷議員がおっしゃるように、これからいろんな提

案をされることについての根拠から我々は独自に調査して議論しなければいけなくなってしまうので、これは行政側の手続き上のことも、しっかり段取りを踏まないとですね、テーブルがない状態になりますよ。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 三澤議員ですね、計画設計を発注するまでは確信をしながら発注いたしました。計画設計の中で、いろいろと未来を見据えて思っていたということでもありますので、計画設計の発注までは45で行こうというのは、確定して発注したのは間違いありません。ただし、計画設計が進む中で、先ほど言ったとおりですね、人口減少、さらに総合病院、私も全体的にはですね、八雲町の医療を考えた時に、いろいろ悩んでいたということでご理解をいただきたいと思います。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) それで理解するとですね、さっきも言いましたけれども、令和3年度の予算案の中に、45床の計画設計を大事にしたうえでの実施設計予算が上がってきたんですよ。だからこのときにご自身の中で根拠がぶらついていたら、提案しなければよかったですし、提案した説明も違う言葉にして、議会の中で議論をさせるという、ちょっと無責任かもしれませんが、そういった提案の仕方もあったでしょう。だから今、言葉を繕っているかたちになるので、これは非常に今の説明では、認めてしまったら大変なことになるというのは僕の感想です。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(能登谷正人君) 町長。

○町長(岩村克詔君) どの時点かといったら自分もはっきりしませんので、三澤議員さんがおっしゃっている、どの時点で悩み始めたかは私もはっきりしませんけれども、実施設計が決定した後で悩んだのか、いろいろ悩みながら実施設計を決定したということで、そのあとに悩み続けていたということでご理解いただきたいと思います。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) 人間として悩む部分については、同じ人間として認めますけれども、行政の進め方、そして我々も議会で議論する進め方の、いろんなルールを決めてきた中、そういうテーブルの上で言ったらですね、45床を基本に考えて実施設計予算を上げてきたわけですから、これを反故にするのであれば、ちゃんと手続き取らなければいけないということですよ。あなたがある時点でどう考えていたかとか、僕がどう思うかとか、そういうことではなくて、株式会社というのは、資本における有限責任なので、ある意味、個人の思いだとかが反映される部分があると思いますけれども、行政の上での責任、我々、政治家としての責任は無責任、俺の責任ここまでだよということにはならないので。

だから今回も一つの令和3年度という予算を上げてきた中で、我々も認めて走ってきてるわけで、令和3年度の中の出来事ですから、それを全否定するお考えをおっしゃって、そして今回、全協という場所を設けた中でも、その責任の所在があいまいなかたちで、今の心情をわかってくれという説明では、これは本当に、これから何も議論できるテーブルがなくなるということをもう一度ちょっとよくわかってもらいたいと思います。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 確かにですね、三澤議員さんがおっしゃっているとおり、手続き的なことをやっていなかったということをお大変、反省しています。ただ、本当に議論をですね、もしできるのであればですね、議論をこれから深めたいと思っておりますし、ただ、何回も言っているとおりですね、19床に必ずしようということではありませんので、ただ、検討したいということをお発したということでご理解いただきたいと思っております。

○11番(斎藤 實君) いいですか。

○議長(千葉 隆君) 斎藤議員。

○11番(斎藤 實君) いろんな議論は、あることは承知しますけれども、ただ先ほどからですね、町長からも町民の意見も聞きたいと。そういうことで結論を出したいということをお考え方を示しておりますので、それを尊重しながら、決して19床ありきでないよということをおありますので、それをですね、期待しながら45床で計画できるような町民との接点をですね、是非とも町長自ら作っていただければ一歩前に進むのかなと。ただ、手続き的なものにつきましては、今、いろんな方からお話されたように、そこのところには私自身もいかがなものかなとこのように思っておりますので、そのところですね、期待をしながら、町と町民との懇談会、早く設定して方向性を打ち出してほしいなというふうにお思いますが、それでも。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 議員の皆さんも一人ずつ意見があると思っておりますので、先ほど言ったとおりですね、町内会のお話し合い、審議会がおりますので、その中でまた熊石の町民の皆さんの意見、さらに病院の意見も聞きながら、早急に議員の皆さんとも検討委員会を開いていただいておりますので、方向性を決めていきたいと思っておりますので、少しだけ時間をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さんいいですか。

○12番(能登谷正人君) いいです。

○議長(千葉 隆君) 斎藤さんはいいですか。

○11番(斎藤 實君) いいです。

○12番(能登谷正人君) 今の斎藤さんからの質問で終わりというのは私は納得しません。町長は常に夢と希望の持てるまちって。それから働ける場所を作ると。いろんなアイデアで民間出身としての、町長としても、さすがだなと思っておりましたけれども、今ここに来てですね、夢と希望の持てるまちというのは何の夢なんですか。町民の方々の夢と希望はどんなことを想定しているのかというのが一つと、それから、今、国保病院がなくなるという中で、55人働いている町の出向者も含めて55人働いている中で、今19床の診療所体制になったら、10人そこそこで間に合うと。もっと少なくという、上ノ国の診療所もそうなんですけれども、もっともっと少ないんです。10人以下なんです。そうするとあとの40人どうします。働ける場所を作るといいながら、働く場所をなくして。そして今、町長のやろうとしている19床というのは、全く町長の普段言っているあれと全くイメージと違う。夢と希望も熊石の町民にしてみりゃ奪っちゃう。そしてなおかつ働いている人たちも奪っちゃう。そして片方では夢と希望の持てるまちと。働ける場所を確保すると。そしてこの間

なんかで町長の名前を見ましたけれども、働ける場所を作って、なおかつ来た人たちの呼び込みに、また働ける人を呼び込むという、そういう文書も見ましたけれども、今、失礼ですけども八雲町の本町で50人働ける場所をなくしたら、なにか代わりに手当はありますか。

なおかつ熊石の国保病院は赤字、総合病院の前の事務長そこに座っていますけれども、なんぼ一般会計から持っていったら。5億や10億じゃないでしょ毎年。今年は黒字だって威張ってるけれどもコロナの関係でしょ。だから変な病院じゃないんですよ、あそこ。町民の健康、それからさっきも言ったけれども、病院に病気で実際に経験した人がそばにいますけれども、すぐに対応してくれる病院。ですから前もそういうちゃんとした病院をわざわざなくしなくてもいいじゃないですか。

だからさっきも言いましたけれども10年後20年後は別ですよ。今、現在困っている人がいる。なにも小さくする必要は全然ない。我々町民の代表として物事を考えると、いいですか。町民の代表として我々考えている。町長もそうなんです。町民の代表ですから。●●というのはわかります。だけれども、熊石の国保病院というのはそうではない。さっきも赤井議員さんも言ったように素晴らしい病院なんです。それで総合病院と全然違うでしょ。なんぼ持って行ってるの。赤字だ赤字だって言いながら。そんな最近赤字かわからないけれども、1千万円か2千万円。それくらい町長として町民の福祉向上を守るなら、それくらいの投資は当たり前なんです。

町長は、どこかの言葉を借りると一丁目一番地さ。町長がそういう言葉を使っていたから。一丁目一番地。ですからあの病院があることにおいて、熊石地域の人たちはどれだけ安心感を持って生活ができるか。生活しているかというのが問題です。我々は、斎藤議員もそうですけれども、直接、町民の人方と毎日会って、毎日言葉を話している。八雲の議員の人達は失礼だけれども、同じ八雲ですよって来て話をしている人がいますか。我々がここにきて頑張るのは町民の声があるから頑張っているんです。こんなことを言って町長に嫌われてないですよ。後で何されるかわからない。今のは冗談です。

ですから、もうちょっと前向きな考え方で、今の夢と希望の持てるまち、それから働ける場所を作ると。そういうことでいろんな牧場なんかや、●●牧場関係の働ける場所もどんどん増やしていく。それこそ我々は、こういう新しく作るものを懸念して●●しなければならない立場。うまくいくのかどうなのか。病院は実際に今まで何十年ってやってきて、今でも経営安全な病院として、そしてスタッフ全員が一生懸命働いて、そして地域の医療を守ってくれている。総合病院と、組織としては総合病院のほうが、さっき町長も言ったように、北渡島の医療圏を賄っている病院だからしょうがないって一言で済みますけれども、そうじゃないと思う。

町長はですね、北渡島の病院の、聞きましたよ、町長が一生懸命歩いて各町から町長が来て、病院を建て替えるんだったら云云かんぬん。そして八雲総合病院って、これも聞いています。確かにほかの町の人達は何で俺たちの町で来てそういうことを、●●、こんなことまで行っていると。我々も町長が、総合病院が可愛いから、どんどんそういうふうにして、民間の町長として歩いセールスしていると。これは●●ますけども、今、この国保病院に関しては、どうも先ほどから言うように、今、二つ言いましたけれども、夢と希望の持てるまち、それと働ける場所の確保。この二点について、それからさらにコメントがあれば言ってください。お願いします。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) この能登谷議員さんですね、私は国保病院を熊石からなくするという話は話していませんので。それと同時にですね、1千万円、2千万円赤字というお金の話も私は、それだからという話も一切していませんので、それはご理解いただきたいと思います。

ただ能登谷議員さんがおっしゃっているとおり、病院を残すのは夢と希望に値するだろうと思います。ただし働く人を確保するということであるとはですね、やはりこの病院を維持していくということは人口と比例していくものだろうという気がしますので、今、多分、能登谷議員さんがおっしゃっているとおりですね、私も今であればですね、今の病院で十分やっているとと思っています。ただ、今この一番の国保病院の問題は院長先生が60歳を過ぎてきたということで、今、もう一人のお医者さんを確保できるか一生懸命やっています。この辺を今の藤戸院長は本当に、私はすべての病院を見てきたわけではありませんけれども、北海道の中でも日本の中でもですね、本当に地域医療を守っている。ある人に言わせるとスーパーマンみたいな先生だなと思っています。地域にそういう先生は、今のところ私は、藤戸先生みたいな先生は、私は見えてないんですよ。

だからこそですね、やはりその次の病院の先生を確保しながらですね、持続していく。ところが人口が減っていくとですね、やはり維持していくということも必要なので、本当に先ほど赤井議員さんがおっしゃっていますけれども、確かに本当に熊石の人たちがこの病院が必要だということを強く今、話をしていますので、私も斎藤議員さんから話が出たとおり、熊石の方々の意見もですね、しっかりと聞きながらですね、方向を示していきたいと思っておりますので、少し時間をいただきたいと思いますと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷議員。

○12番(能登谷正人君) 町長の夢と希望の持てるまちづくり、だいたい想像がつきます。わかりました。そして働ける場所の、明確に答えてはもらえなかったんですけども、なんかいろんなことがぐるぐる回っていて何を質問したらいいのか。

ただ、今、町長が今一度、熊石の町民の人方と話をしたいという、話をするということですが、ちょっとそれは無駄なことなんです。行ったら必ず石投げられるとか、罵声を上げられるとか、想像するだけでもちょっといかなものかと思うんですけども、そういうことをしなくても、既に熊石の町民の方々は答えを出しているんです。1,556人。この名簿のほかにですね、入れられない方、たとえば20歳以下の人たち。そして学校の児童・生徒を含めて、それから役場の公務員の方々、そしてもう一つ老人ホームの、署名できないような方々、病院に入院している。こういう人方が入っていない1,556名ですから。ですから、行かなくても答えがここで出ているんでね。そういう可哀想だから熊石に行かないほうがいい。ですからここに答えが出ているんだから、先ほど町長が答えを出してくれるという、あとで答えを出していますから、しつこいですが、ここで前向きな答弁できませんか。

皆さんに誤解のないように言っておきますけれども、1,556名、これプラス今、言ったように児童・生徒、そして入院患者、老人ホームに入っている人方、こういう人方を入れると、熊石に籍を置いている人、全員なんです。ですからそういうことを思って今、町長に投げかけていますので、その辺は誤解しないでください

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 能登谷議員さんですね、本当に石を投げられても罵声を浴びられてもですね、直接ですね、熊石の町民と意見交換をしたり、方向性を決めていきたいと思っておりますので、どうか先ほどから言っているとおりもう少し時間をいただきたいと思っております。

○11番(斎藤 實君) 熊石の町民は人間出来てるから大丈夫だって。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤議員。

○8番(三澤公雄君) それだと意見交換じゃなくて、診療所化を納得させるという会になるんじゃないですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) あくまでもですね、必要性をですね、再度確認しながら方向性を決めていきたいと思っておりますので、直接ですね、この45床がいいと、熊石の住民の皆さんと意見交換をしていませんでしたので、しっかりと今、私の発言によって熊石の方が思っていることを聞きたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤議員。

○8番(三澤公雄君) 確か冒頭は19床にしたいということではないということで、議会ともこれから議論するという話合が持たれるのかなと思ったんですけれども、今ここに来てはつきりしてきたのが、熊石の町民に19床という俺の考えを理解してもらおう会をやるっていうことですね。

○町長(岩村克詔君) 言ってない。

○8番(三澤公雄君) 言ってない。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 私の発言によって、熊石の人たちがどういう思いをしているのか町内会や審議会と話を聞きながら、方向性を持って、また議員の皆様とまた意見交換をしたいと思っております。

○議長(千葉 隆君) いいですか。

○8番(三澤公雄君) いいです。

○5番(関口正博君) はい。

○議長(千葉 隆君) 関口議員。

○5番(関口正博君) まずですね、議会として、議員の一人として、自分は本当に若い議員ですけども、昨年3月に定例によって認めた部分に関しては本当に議員として心からお詫びを申し上げたい。もう一度しっかりとした議論をしたい。町民の気持ちに寄り添うことも、町民の意見を聞くことも、それは議員が町民から付託を受ける以上、一番大切なことではあるけれども、そのうえでしっかりとした判断を下すというのは一番大事なことであろうと私は思っております。先ほどから政治家、政治家という言葉が出ておりますが、一回言ったことを訂正するということは十分あり得ることであって、当然、時代は動いていくわけですから、致し方ないことだろうと私は今回の町長の発言に関しては正直に言って軽はずみなものであったと思っておりますし、もっともっとしっかりとした丁寧な説明があれば、ここまでのことにならなかったという思いもあります。

しかしそのことによってこのように議論が進むということはですね、逆に良かったのかなという部分がありますけれども、だからこそ議会として、町長の今回の発言を受けて、先ほど三澤さんも町長の発言を受けて、いろいろ認めてくるけれども、しっかりと調べなければならない。これから調べなければならないと言っていましたけれども、私はそういうものだと思います。

議員も一人一人ひとつの事業に関してしっかりと意見を持って、町長の考えることに対して議論をする。そのための勉強をするというのは当たり前のことだと、そのように思っております。今回ですね、この場において答えを出す必要はなくて、急ぐのであれば何回でも集まって14人には14人の意見があるでしょうし、そのうえで、自分の考えばかりが正しいと私は思っておりませんし、たくさんの方々の意見を聞きたいですし、そのうえでですね、国保病院の問題というものを議論してければいいなと思っております。よろしくお願いたします。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 議員さん一人ずついろんな意見があるんだなと理解いたします。ただ、私が発言したことによって、このようになったのはですね、大、変熊石の皆さんや議員の皆さんに迷惑をかけたことは心からお詫びしたいと思います。

しかしながら先ほど言ったとおりこの病院についてもですね、先ほど能登谷議員さんからあつたとおり、私も直接、熊石の方と意見交換、議論していなかったことにえらい反省していますので、是非、来月ありますので、その辺で意見を聞きながら、足りなければ何回も熊石の意見を聞きながら、さらに議員の皆さんの意見も聞いてですね、方向性を決めて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) これから丁寧な議論するということは僕は全然否定しないんですけども、ここまでの議論を聞いていたら、まず筋を付けなければいけないのは、令和3年度に45床を基本に考えた実施設計予算案をしっかりと撤回してもらおうという手続きをしてもらう。これが議論のスタートになるということになるという認識をしなければいけないんじゃないですか、我々議会議員としては。そうするともう一回、1からの話になるんですけども、これ、うやむやにしてね、お話を進められるとおかしくなるんじゃないのかなと思うんですよ。

○議長(千葉 隆君) 私のほうを向いて話をしていただいたので、関口議員さんの言うように、議論は、場面はしっかりと作っていきたいと思いますし、議員のほうも、今、なぜこういうふうになっているかということ混乱している部分もあるので、それと町長の考え方も少し修正してもらわなければならないなというのがあります。それは、改選前の選挙の10月12日までは基本設計を執行するという立場は、基本設計を履行する、そういう行政手続きをしてもらうということで予算をやっていたから、議会も実施設計をやるという立場。そして町長が検討したいということで道新に載って、所信表明で診療所の検討したいという表明があつたのさ。そこで今、この場だから。公式には。文厚で調査するとは言っているけれども、全体では今回が初めて。

そうしたときに、あくまでも基本構想や基本計画の策定をしているわけだから。その中で町長が今、今日聞いたのが、迷っていた、確信が持てないけれどもやったと言ったんだから。確信持てないけれども進めてしまったよと。でもそれだけじゃ実は変更できないさ、町長。そこには理由がい

るのさ、理由。なぜ変更をしたのか。方針を展開したのか。原因が明確じゃないのさ。確信を持ってないからとか、進め方に不安があったから変更したって。なぜ、変更したかということがなかなかわからないのさ。そういう中で住民に説明をしたって、基本設計があるでしょ。

それで、将来への不安があるからと言ったけれども、将来についても基本設計で書いてあるわけよ。人口減少にはこういうふうになります。患者さんはこういうふうに移りますって書いてあるの。そしたらそれが間違っていたのかいってことさ。それが違ってなかったら進めればいいし。ここの統計のあり方が不安があると、それから基本構想の中で違う要素が入ってきたよ。こういう要素があって検討した結果、やっぱり変更しなければならないよ。そういうのが何にも書かれていない。理由がないわけさ。町長の今の説明では思いだとか不安だとか確信ない中を出したんだけれども、じゃあもっといえばなぜ確信を持てなかったか。そしたら将来についてなんか不安があったと。そしたらそれを具体的に、こういうことが45床であったら確認できないからという中身をね、説明しないと、いつまでたっても誰も納得できない。特に納得できないのは熊石の住民だと思うんですね。だって思いがさ、確信を持ってないということで自分が作った基本構想を変えるという理由にならないしょ。

だから基本構想を今、変えなければならないんです。実際に町長が言うように、これから数を検討するというけれども、数は検討して結果45だったんだから。それを変更する、45の変更を検討したいというのであれば、なにを議題として検討するのかという原因のところとか、そこがね、説明が足りないんじゃないのかなと思うんですね。それで住民の人から聞いたとか、議会でどうのこうのやっても、ずっと平行線のままだと思うんです。だからあくまで基本計画を作ったんだから、どこがあれだったのかきちんと出さないと、変更できないんですよ。だって残るんですもん、基本計画策定。それで違うことをやったら基本計画策定はもういらないしょ、何の計画でも。

だから変更しなければならないんです。基本計画を。違うことをやろうとしたら。ただ変更するためにはどこを変更するかということ具体的に出してもらわないと、数であれば。数の決定は基本計画で作っているはずなんです。その辺、事務長、私の言っていることは間違っていますか。基本構想の部分、数の部分、病床の部分決めたのは基本計画でしょ。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長、国保病院事務長。

○議長（千葉 隆君） はい。

○国保病院事務長（福原光一君） 議長がおっしゃるとおり、国保病院の必要病床数の算定45床につきましては、基本構想また基本計画で具体化して、45床が最適であるという判断をしたところです。

○議長（千葉 隆君） だからそのことを変更するには基本構想と基本計画がどこが間違っていたとか、そういうのを具体的に示さない限りは実施設計をやらなければならないんです。それを能登谷議長さんや斎藤さんが言ってる。三澤さんも。だから、ただ思いだとか願だとかという説明だけでは絶対に納得できないと思う。熊石の住民も。だから基本計画と基本構想を変更するのであれば、どこを変更するのかということ、行政手続き上、ちゃんと踏みながら、踏んだうえで発表するだとか、議会のほうにかけてもらわないと。

なんもないのにさ、俺たちに全協でかけて議論してくれと言ったって、言わないものをどうやって今度、俺たちが住民に説明すれって言ったって、何で変更になるのよって言ったって、言えないと

思うんですね。だからそこをちょっと整理して、きちんと。そしてもう一回、全協で持ってきてもらえませんか。町長。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 千葉議長さんがおっしゃっているとおりだと思います。多分ね、不安だったと思います。自分自身が。それで熊石の正直に今、話をしています。不安で、熊石の町民の皆さんから、この国保病院 45 床で守っていくぞと。やっていくぞと。また議員の皆さんからも、町長 45 で大丈夫だと。5 年 10 年 20 年経ってもこの病院はやっていけるということが私は自信がなかったというのは、理由じゃなくて、そういう思いだったので、今回、熊石の皆さんから本当にたくさん 45 でやってくれという意見をもらいましたので、直接聞きながらまた自分に自信が持てればですね、45 でいきますし、さらに議員の皆さんからも、そんな思いがあればですね、またやっていきたい。ただどういう理由でと言われても統計的なことも確かに統計は出てきますけれども、統計どおりいかないこともありますので、不安だということだけなので、正直な気持ちを今、言っていますので、気持ちじゃどうしようもないといわれたらどうしようもないんですけれども、少しだけ時間をいただきたいです。

○議長(千葉 隆君) 今は町長と意見交換なので、結論、今後、町民と検討したいという思いだけは聞いておきますけれども、このあとに議員間で討議しますので、その結果はお伝えします。

○12 番(能登谷正人君) 一言だけ。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12 番(能登谷正人君) 自分は町長と 8 年間一緒に歩いて、最も信頼できる仲間だと。私も議長として町長を盛り上げてきたし、町長もまた私を盛り上げてくれました。それでね、8 年間無事に何事もなく過ごしてきましたけれども、ここに来てこういう問題にぶつかって、町長のためにはどうしたらいいのかということを考えてみました。それはですね、一番いい方法は、これを凍結して、棚上げして、やらないで、そのまま、今の病院をそのままにしておいてください。そして、あとは 4 年後は、建替えしてくれる町長を選びますから。それが一番。今でも 19 床にしないで、そのままにして。

(何かいう声あり)

○12 番(能登谷正人君) 俺だけの思い。撤回します。議員の人方が駄目だということで撤回します。一番いい方法だと思いますけれども。

(何かいう声あり)

○12 番(能登谷正人君) 本当にそう思いますよ。

○町長(岩村克詔君) いいと思う。

○12 番(能登谷正人君) 今の、小さくされるのであれば、今のままのほうが。

○11 番(斎藤 實君) 小さくしないって言ってるんだから。

○12 番(能登谷正人君) 斎藤さん、あんたの甘いところなの。素直に。人間がいいもんだから。俺たちみたいに疑ってかからない。素直に町長の言葉をまともに受けてるから。まともに受けた結果がこれだから。

○町長(岩村克詔君) いい意見だ。

○12 番(能登谷正人君) わかりました。撤回します。それなら町長と同じだ。

○議長（千葉 隆君） でも町長ね、やっぱり策定の計画、基本構想と基本計画、これを変更するのあれば、変更点をちゃんとやらないと。45 を変更することを検討したいというんだから。今の町の方針は45 だから。

（何かいう声あり）

○議長（千葉 隆君） 決まってないじゃなくて、基本計画と基本構想は間違っていたのかとなるわけだから、だからそこに不安要素があるのであれば、なぜ、どこの部分が不安要素なのか、ということをやちゃんと説明しないと、不安だよとか、ちょっとぼんやりした部分じゃ、なかなか皆の理解を得られないのさ。検討するにしても。だからそこをちょっと詰めてもらわないと、なかなか説明ができないというか。だから将来像が不安定だと思ったら、そのままずばり将来の人口減少と誤差があって、誤差の部分もかなり出てきたよと。その部分では確保できませんよと、患者を。

だからそういうのをちゃんと出してあげればいいんだわ。だからこそ19 だとかなんぼだとか。それがない。具体的にない中で不安だからとか言われても、それから予想したのが違くなるかもわからない。でもそれも町長が出してきたから。だからやっぱりそこはきちんと手続き的に丁寧にやっていかないと、これから基本計画違うことを出してきたり基本構想をやってくることに、質問項目が増えたのさ俺たちも。町長が自分で出してきた基本計画や基本構想を出してきたときに、不安はありませんかとか、確信はちゃんと持ってやっていますかということ質問しないと通せなくなる。実際。だからそういうふうな議会のあり方にしないように、その理論武装だけは、きちんとしてもらわないと、なかなか議論が前に進まないと思うんですよ。その整備も一方でしてくださいと。それは大丈夫ですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、本当に整理したいと思っております。ただ、この基本構想45 床はそのままでということも、神の声なのか、仏の声かわかりませんが、取り消されましたけれども、自分とすれば、少し解決できるように、方向性がまた議員の皆さんに示せるのかなと。また今の基本構想45 床を進めながら、期間を持てるという案がありましたので、その辺も含めてもう一回戻って考えながら、さらに熊石の住民の皆さんと意見を交換しながら、また議会のほうに報告しながら、意見を聞いてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○2 番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2 番（佐藤智子君） 今の町長の発言ちょっと理解できなかったんですけども、45 床を取り消された。

○町長（岩村克詔君） 消さない。

○2 番（佐藤智子君） もう一回言ってもらえますか。

○町長（岩村克詔君） マスクしてるから声が通らないと思いますけれども、45 床がそのままで少し考える時間ができるんだなということもちょっと今ありますので、それを踏まえて今、議長さんからあったとおり、方向性も含めて考えて、また検討のほうに持って行って進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○議長（千葉 隆君） 説明すれば、今、唐突に所信表明で検討しますと言ったけれども、中身の議論も中身の検証もきちんとやっていないで言ってしまったから、要は基本構想と基本計画はそのままにしておいて、変更するには、または変更の時期、または変更しなくてもいいかということ、少し時間をかけて考えたいということ言ってる。町長は。そして、結果、たとえば変更しなけれ

ばならなかったら、基本構想のどこが変更しなければならないというのをちゃんと明確にするだろうし、そうでなければ45でいこうし、あるいは一定期間このままでやって少し人口が落ち着くときに確信を持って実施設計に入っていくというやり方もあるだろうし、その辺の時間をくださいということを今、言っています。

○2番(佐藤智子君) ひとつ。

○議長(千葉 隆君) そういうふうに理解したほうがいい。

○2番(佐藤智子君) はい。

○議長(千葉 隆君) 佐藤さん。

○2番(佐藤智子君) ちょっと別な部分で質問させていただきますけれども、町長の背景にね、国の政策も背景にあります。地域医療構想で岸田政権は2万床のベッド削減を言っていますし、公的病院の統合・縮小を言っていますけれども、そのベッドを減らすのに消費税で交付金として充てるという方針がありますよね。そのベッド削減すれば、それがいくら入ってくるとかそういう計算とかもしているんですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 全くしていません。お金がかかるとかかからないということではなくて、未来に向けてという思いでしたので、そんなこと思って進めていませんので、ご理解いただきたいと思えます。

○2番(佐藤智子君) はい。

○議長(千葉 隆君) 佐藤さん。

○2番(佐藤智子君) お金の件はわかりました。しかしですね、国の方針が背景にあるのは確かなんじゃないですか。その辺は考えてないんですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) この国の方針に対しましても、我々町村会として反対をしながら意見交換をしていきましたので、我々、渡島町村会並びに全道の町村会についても、この件については国に対して反対してきたと。国からは今そういう圧力はかかかっていない状態でありますので、またこれから国の方向がどう変わるか、我々もちょっと見定めなければなりませんけれども、今のところ考えていないということでご理解いただきたいと思えます。

○2番(佐藤智子君) はい。

○議長(千葉 隆君) ほかにございませんか。なければ(2)の報告を受けたあとに、若干、時間をいただいて議員間で討議するというので、ひとまず整理したいと思いますので、いいですか皆さん。

(「はい」という声あり)

○議長(千葉 隆君) 次に平田内川小水力発電の関係ですけれども、休憩取らないで進めていいですか。

○4番(大久保建一君) ちょっと休憩とってもらってもいいですか。

(「はい」という声あり)

○議長(千葉 隆君) じゃあ、10分間休憩します。35分に再開します。

休憩
再開

○議長（千葉 隆君） それでは休憩前に引き続いて、全協を開きます。

町長報告事項（２）平田内川小水力発電会社設立に対する出資についてご報告をお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 平田内川小水力の発電会社設立に対する出資ということで、私のほうから説明させていただきます。この件につきましては、熊石側で3か所の小水力の可能性があるだろうということで、日本発電または興和工業さんと、いろいろ協議をしていると。その中で平田内川ということで先行でやりましょうと話し合いをしていましたが、急遽ですね、特にF I T、北電の接続が急に早まったということもありですね、今、設備する日本発電や興和工業並びにその関係の会社は自分たちだけでやりたいという話でありました。

ところがですね、私はこの八雲町の熊石地域でやる小水力は、今、日本の国、北海道もC o 2削減、ゼロカーボン北海道ということで推進していますので、これに対しても町としても、努力しているという意味からも出資するべきだと考えています。さらにもう一点はですね、当初、本社を札幌に持っていくという話をしていましたので、出資をするということで、ここの熊石に本社を必ず置けという話をしました。これも了解を得ていますが、ただ出資をして株主として意見を言わない限りですね、皆さんご存じのとおりS B エナジーさんも、本社はここにありますが、実態が我々としてもなかなか掴めないのがありますけれども、出資をしたことによって、役員に私も入ります。役員会並びに、私が出席しないときはですね、代理ということで担当課も入れますので、内容もわかります。こういうことからですね、私も小水力も出資をするということでお願いしたいと思っております。

さらにこれから出資者の中には清水建設さん、三菱商事さんが入っています。この発電に対する建設も始まりますが、これも取締に入りですね、今は電源開発さんの2番目の出資者として、なんとか地元の会社で受注できるように、役員会でも発言できますし、さらに熊石地域からも●●、いろんなものもお願いできる。そして先ほど言ったとおりですね、熊石に本社を置くと、熊石からですね、雇用が生まれてくるということも含めて、私はこれは出資するべきだと考えています。私はこの熊石地域に一人でも二人でも雇用が生まれ産業が持続できるような、そういう産業をですね、目指していく持続可能な産業を作っていくことが、私は必要だと考えていますので、議員の皆さんの理解をいただきたいと思えます。

次にですね、これからですね、総務経済常任委員会に説明していますけれども、その他に説明していませんので、担当課から事業内容を説明させますので、よろしくをお願いいたします。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 議長、商工観光労政課長

○議長（千葉 隆君） 商工観光労政課長。

○商工観光労政課長（井口貴光君） よろしくをお願いいたします。

本件につきましては、11月18日に先ほど町長からもお話がありましたとおり、総務経済常任委員会で説明させていただきましたけれども、本日、全員協議会でもご報告させていただきます。

はじめに平田内川における小水力発電のこれまでの経過についてご報告させていただきます

平田内川における小水力発電については、冬季間に川が凍結する可能性が少ないこと、また、落差もあり、流量も安定していることから、ポテンシャルが見込まれるということで、平成29年頃に北海道再生エネルギー振興機構と民間事業者が現地確認を行った経緯がございます。

その後も何度か現地確認を行なっていたようでありまして、令和2年に入りまして、当時、調査に関わった北海道小水力開発株式会社、これは登別市の会社でありますけれども、事業化に向けた判断をするために流量調査を行いたいという申し出がありましたので、民間事業者がこの調査を行うことについて、令和2年9月15日に開催の総務常任委員会で報告をさせていただいております。

この流量調査は、昨年の10月から本年9月まで行っておりまして、調査結果としては、冬季間は濁水いたしますけれども、それ以外は流量が安定しているとのデータから、発電可能と判断されたところでございます。

事業化する場合は、国の固定価格買取制度、FITを活用して売電することになりますけれども、電力会社との系統連携の調整が難航していたこともありまして、前に進めない状況にございました。

それで、本年9月に入って、電力会社との調整に見通しがたったということで、事業化に向けて具体的に動き出しておりまして、現在、民間事業者が、12月17日までの申請期限となっているFITの認定申請手続きと、新たな会社の設立準備を進めている状況でございます。

以上が、これまでの経過でございます。

それでは仮称になりますけれども、平田内川小水力発電会社設立に対する出資について、2枚目の資料をご覧ください。

はじめに、出資をする目的でございますが、先ほど町長からもお話がありました、資料のほうでは、記載しているとおり、熊石地域の振興と地域に貢献する再生可能エネルギーの導入を推進するため、再エネ資源である平田内川を活用して小水力発電事業を展開するために設立する特別目的会社に、町が出資するものでございます。

平田内川における小水力発電事業については、産業振興プロジェクトや先日の初議会における町長所信表明でもご説明を申し上げておりますけれども、国が進めるカーボンニュートラル、それから北海道のゼロカーボン、そういった脱炭素社会の実現と、再エネ導入による様々な面での地域の活性化に向けて、北海道初の官民共同となる小水力発電事業のため、この事業の動きに歩調を合わせて、町としても協力していくものでございます。

次に、事業の内容でございます。お示ししておりますデータは、小水力発電事業を中心となって進めている民間事業者が作成したものを、許可を得て掲載しております。

左側にイメージを載せておりますけれども、年間発電量を179万7,552kW/h、一般家庭の年間電力消費量を4,300kW/hと仮定した場合、約420世帯分の電気を賄える計算になります。年間の売電収入は、消費税抜きで5,212万9,000円を見込んでいます。

設置予定場所について簡単な地図を載せておりますが、ひらたない荘から、さらに山に走ったところに温泉の泉源がございます。その近くに熊の湯という露天風呂がありまして、その上流に、写真でお示ししているとおり砂防ダムがございます。この砂防ダムから取水しまして、水圧管という

管を発電施設まで敷設し、この管を流れる水が発電施設に設置する水車、タービンを通る際に発電して放水すると。そして発電後はまた川に戻すという仕組みでございます。

発電施設の場所は、熊の湯から約1 km下がってまいりますと、泉源橋という橋がありますが、その付近に設置する予定でございます。参考として、裏面に小水力発電についてのイメージを載せておりますので、後ほどご確認いただきたいと思います。

資料、右のほうに移りまして、発電施設の整備費用は、消費税込みで6億500万円の予定で、資金計画については自己資本5,500万円。残りの5億5,000万円はすべて銀行借入れの見込みでございます。新たに設立する会社ですが、出資割合については記載のとおりで、八雲町は資本金5,500万円のうち、1,100万円で、出資割合20%を予定するものであります。

また、小水力発電事業における収支見込み、これは事業者が試算したものでありますけれども、こちら載せております。

利益欄をご覧いただきたいのですが、2023年、令和5年ですけれども、この年から売電収入が発生し、以降は記載のとおり試算されているところでございます。

次に、事業による効果については、資料の下段に①から⑥まで、想定される事業効果を載せております。特に③、⑤、⑥については、町が出資して協力体制を築くことによって、事業効果の質を高めることにも繋がるものと考えております。

最後に、今後のスケジュールについてですが、12月開催予定の定例会で、出資金に係る予算補正をお願いする予定でございます。

それから資料には記載しておりませんが、熊石地域での住民説明会については、事業者との調整により年内の開催を予定しているところであります。

また、来年4月から発電施設の工事を着工し、再来年の4月からの運転開始を予定しているところでございます。

以上が、小水力発電会社設立に対する出資についてのご報告でございます。よろしくお願いたします。

○議長(千葉 隆君) それでは今ご報告がありました、小水力の関係について、出資について皆さんのほうから何かご意見ありませんか。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤議員。

○8番(三澤公雄君) 少し先のことになるんですけども、これFITが終わったあととかはどういうふうに考えているのでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) このFITは20年でありますので、20年終わった後についてはですね、多分、地域電力になるのか、さらにどんな状況になるか、これから会社側と議論してみたいと思っておりますが、先ほど話したとおりですね、これはこの初めてやりますので、これが上手くいくと、どんどん進むんじゃないかと想定しています。出資する中にですね、清水建設さんと三菱商事さんが入っています。多分私の感覚でいくと、先ほど言ったとおり札幌に本社を持っていきたいということを書いていましたので、もっと大きくやっていくんじゃないかなと想定していますので、ちょ

っとその辺もまだ掴んでいませんが、熊石もあと2か所くらいいいところがありますので、この辺については八雲にとっても大切な電力になり得ると思っております。

さきほど三澤議員から20年後はというのは、水力というのはあまり太陽光だとかバイオマス発電と違ってですね、水を出してきてタービン回して戻すということですので、20年以降もですね、十分使える施設と聞いていますので、FITで●●ではありませんけれども、それはこれから会社の意見を入れながら、町と共同で使える可能性もあるということでご理解いただきたいと思えます。

○8番(三澤公雄君) 本社を是非、八雲に置きたいとかということで出資して取締役会に町長が入ってちゃんと意見を言うていくというかたちでいけばですね、この地域電力というものを見越してそっちの部分でのノウハウを吸収できるかたちでやっていくほうが、これが場所が熊石なわけですから先ほどの議論を引きずるわけではありませんけれども、夢と希望を熊石の人たちに持ってもらうということを考えたらですね、再エネに特色を持っていくという意味で、熊石の人たちにもまた改めて夢と希望が持てると思うので、出資したからにはですね、そういった方向に、FITがあるうちにアクションしていけるようなことをしていただいたほうが熊石地区にとっては夢と希望になるのかなと思うんですけれども、どんなものでしょう。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 本当に三澤議員いい意見だと思います。20年の前にですね、これから私も取締役として入っていきます。さらに私が行けないときには担当者がいますので、担当課が入りますので、地域電力ということも踏まえてですね、検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長(千葉 隆君) ほかに。

○11番(斎藤 實君) はい。

○議長(千葉 隆君) 斎藤さん。

○11番(斎藤 實君) 先ほど説明の中で、官民共同の事業、いわゆる町が出資することによって3セクになっちゃうんですね。そのところが、どうも僕はいいのかなと。事業自体は大賛成なんですけれども、町においても設備投資促進条例があるんですけれども、そういうものの活用でもって、補助金出して取り組んでいくという考え方のほうが、私は将来的に一番ベターかなって感じがするんですけれども、これから町長の夢の中でいろんな政策を持っていくということで、どんどん出資して、3セクばかり、たくさんできるようになったときにそうなのかなって感じが受けるんですけれども、その辺の考え方はどうですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) この第三セクターという言葉が良いかどうかわかりませんが、私も青年舎を立ち上げて、議員の皆さんのいろんな意見をいただきました。もっともな意見がたくさんありました。特にちょっとここで報告しますけれども、株式会社青年舎の代表取締役社長を今月いっぱい辞任することを、臨時株主総会で決定いたしましたので、12月1日から私は代表者じゃなくなって、顧問になるということになっていきますので、ご理解いただきたいと思えます。

さらに小水力も第三セクターと言いながら、この斎藤議員さんがよくわかっていると思いますけれども、出資したお金はこの会社が潰れない限りは、なくなりませんので、これをですね、いつでも売れるということになりますし、さらに立ち上がる時に、先ほど言ったとおりですね、一定程度のですね、ルールじゃなくて、お金を入れないと意見が伝わらないということでもありますので、特にふるさと納税のお金を、ここに資本金を投資したいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○11番(斎藤 實君) 議長。

○議長(能登谷正人君) 斎藤さん。

○11番(斎藤 實君) 話し合いの中では、町長自ら出資するという考え方を持っているんだなっていうことを受け止めましたけれども。ただね、会社自体もどんどん生き物で、いろんなところ今、先ほど町長からお話がありましたように、これだけでしまわないで、いろんなものに小水力、あちこちに展開していくんだらうなという町長の発言の中で受け止めましたけれども、そうなった場合に、八雲町だけで止まっていればいいんですけども、他所の方向に行くときに、この会社自体が元になって事業展開していくんだらうな。その時に、果たしてどうなんだろうかなという、町自体が出資することがどうなのかなということを、私は非常に将来的に疑問に持つところなんですよね。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 確かにですね、不安というのはですね、本当にこの会社が、小水力ができるかどうかは不安はありますけれども、一定程度の電源開発さんも資本を投下するということもありますので、私はこれはですね、町が出資しても、小水力が進んだ中ではですね、不安はないんじゃないかと思っています。ただ、これから熊石地域にいろんな展開をしますけれども、これに近いような展開にしていくんだらうな。その都度その都度議員の皆さんにお伺いを立てながら、雇用が生まれるような、熊石地域に新しい産業ができるように取り組んでまいりたい。これがまず一歩だらうなと思っています。それとこの出資金については、いつでも売れますので、もしも不安になったら、たとえばここに書いている三菱や清水建設さんであれば●●に買っていただけたと思います。ただ、先ほどから言っているとおりですね、これから始まる建設事業なんかも三菱さんや清水さんより、資本金を多く20%入れていて意見が強く言えるということで、はじめはこれでいきたいと思っておりますので、もしも●●があるのであればですね、売り払っていくということもできますので、ご理解をいただきたいと思います。

○5番(関口正博君) はい。

○議長(能登谷正人君) 関口議員。

○5番(関口正博君) ほんのちょっとですが調べてみましたが、小水力に関しては北海道は、ほぼ未開の地ですね。これは非常に魅力のある事業であると思いますし、従来の企業誘致の考え方、第三セクターも含めてそうなんです、そうではなくて出資して、その中に組み込んで、いろいろな建設だとかにまで言えるようになっていくのは、新たな企業誘致のあり方ではないのかなというふうに思っております。これは八雲町だからこそ、裏を返せば、今の八雲町だからこそできる事業ではないのかなというふうに私自身は考えますし、事業として考えるのであれば、これは非常に魅

力的なものであるなど。ですからこの出資金の1,100万はそういうことを考えたら非常に安いんじゃないのかなと私個人としては考えます。

ですから、是非進めていただきたい。いろんな考え方があるでしょうが、従来のものではないという部分では、議論はたくさんしたほうがいいと思いますけれども、進めたほうがいいんじゃないのかなと思っております。いろいろな、事業として建設業者なんかも関わる可能性がありますし、メンテナンスという部分においても、地域における雇用の確保という部分では間違いなく見込めるものでもありますし、是非進めていただきたいなと思います。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 関口議員、私もそのとおりだと思っております。さらにですね、この小水力は北海道で官民、民間では初めてでありますので、平田内の地域には多分、来年工事が始まってからですね、発電が始まって、いろんな方々が視察に来るだろうと想定しています。考えれば熊石に人を呼び込む一つのアイテムになり得る。さらに冷水川や、いろんな川で可能性を秘めていますので、この小水力の会社を中心にしながら、熊石地域でまた展開を進められるような、そんなことを考えていますので、私も大いに時代にマッチしたゼロカーボン、カーボンニュートラルに向けて、北海道で注目を浴びている小水力でありますので、進めて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長(千葉 隆君) ほかに。

○1番(赤井睦美君) はい。

○議長(千葉 隆君) 赤井さん。

○1番(赤井睦美君) 総務委員会を傍聴できなかったもので、もしかして重なったら申し訳ないです。別な勘ぐりで、こんなに大きな会社、5番と6番の会社が5%しか出さないということは、可能性が低いから、いつでも抜かれるようにしているんじゃないかという疑いは全くないのでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 疑いはですね、多分この清水建設、三菱さんが1億出そうと2億出そうとですね、もし失敗したら、そんなに会社に影響がある会社だと思いません。だから金額の大小ではなく、多分、清水建設さんは建築としてこれから小水力は進むだろうと思っております。さらに三菱商事については、これから多分、海外の機械が入ってきますので、機械の輸入輸出を見据えてはじめての官民の小水力に期待を持って参加しているものと私は感じています。ただこれは私の感じているところでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○1番(赤井睦美君) はい。

○議長(千葉 隆君) 赤井さん。

○1番(赤井睦美君) エネルギーの地産地消も大賛成なので、成功してくれたらいいなとは思っています。ただ、今までも青年舎とか木蓮に出資していますけれども、あれはあくまでも地元の会社ですね。ところが地元の会社で、本社が八雲に来るかもしれませんけれども、地元じゃなくて他所の企業との連携、これってもしこういうのを見て、八雲町民の人が何かをやりたいときに、じゃあ他所にも出資してるんだから、うちにも出資してくれという声が出た場合のこととか、他所と

か、また大きな企業が出資して一緒にやりましようとなったときに、その出資の基準というのをちゃんと決めておかないと、町長の判断のみ、今、町長の判断のみですよ。例えば町長がこれは行けそうだと思うたら出資する。これは駄目だと思うたら出資しないって、そういう出資する基本的な決まりは作らなくてもいいんでしょうか。いいって言えばそれでいいんですよ。必要ないのかなって。そこだけお願いします。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 大変悩ましい質問だと思っています。私は、八雲に雇用が生まれ、産業が根付くような、そんなことであればですね、地元の方がこんなことをやりたいということも出資していきたいと思っています。これ木蓮も、青年舎はそういうことであります。これからいろんな方が、たとえば第一産業の方々が●●したいという話をされていますので、その辺についても町として出資しながら支援していく。その中には小水力ができて、また新たな雇用が生まれるし、持続できていくと。ただ、あまりガチガチに私が決めてしまうよりは、こういう案件があるごとに、議員の皆さんと、特に常任委員会と意見交換をしながら、今回も常任委員会と意見交換をして、もしも不足であれば、また全協に上げながら、皆さんの意見を尊重しながら徹底してまいりたいと。私はこれからやる事業、いろんな事業を考えて、いろんな方々と話し合いをしていますけれども、必ず議会が承認されないとできませんという話はしていますので、その辺は、なかなかルールを作るのは難しいということでご理解いただきたいと思います。

○1番(赤井睦美君) はい。

○議長(千葉 隆君) 赤井さん。

○1番(赤井睦美君) 先ほど斎藤議員がおっしゃった設備投資、あれに対しても一定の決まりってありますよね。いろんなところに一定の決まりがあって、最後は町長の判断によって一言入っていることが結構多いんですけども、私はそれでもいいからやっぱり、なんか基本的なものを作らないと、岩村町長が町長のうちは自分の思いと議会の思い、この4年間はいいと思うんですけども、その後、引き継いだ人達が何を基準に判断して良いのかというところで、第六感とか、そういうことではない、税金だからね、そういうことではないと思うんですけども、例えばクラウドファンディングのように小水力発電やりたいのでございって、それに関しては決まりも何にもなくて賛成する人が出るのでいいですけども、今回はこれに関してのふるさと納税、小水力に対してございって言ったふるさと納税ではないと思うんですが、だから、ある程度ガチガチじゃなくていいから、基本的なことというかなんというかわかりませんが、決めておいたほうが、よくよくはいいんじゃないのかなと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 先ほど話しましたけれども、もっともだなということがわかりましたので、ただ、このあとどんな基準になるのか、ルールをちょっと考えながら、また常任委員会と揉みながら、どんなルールで決めていいかということ協賛してまいりたいと思っています。

それともう一つですね、この小水力に関してのふるさと納税はありませんけれども、今、八雲町に来ているふるさと納税の80%以上は、町長にお任せしますということでもありますので、私が発想

して議会に提案するという事で理解していただければなど。納税者は私にお任せするということがほとんどでありますので、ご理解いただきたい位と思います。

○5番(関口正博君) はい。

○議長(千葉 隆君) 関口さん。

○5番(関口正博君) 町長、先ほど議会の承認を得なければ、そうしないということをおっしゃりました。これがすべてだと思います。いろんな縛りがあるんでしょうけれども、一人ひとりの議員がきちんと判断して、当然反対が多かったら出資を取りやめるということで、あるでしょうから、ここは私ども議員もきちんと一つ一つの案件、これからこのようなケースはいろいろあるでしょうし、調べながらきちんと対応していくということで、私はよろしいと思いますけれども、何もかもいいではなくて、きちんと判断するという事も必要だと思いますので、それはそれでいいのかなと思いますけれども、どうでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 大変良い意見だと思っておりますが、ただ、一定のルールが必要だとは私も認識しましたので、その辺ちょっと内部的に揉みだして、ある程度、方向性とか意見があれば、常任委員会に意見をいただきながら決めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) 僕はこの事業、自分も興味がある分野ですのでとても大賛成なんです。今後のスケジュールも下に書かれていますけれども、一つ気になるのは、これ水利権の取得だとか環境アセスだとかは、もう済んでいるからこういうスケジュールになるのでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) これはもう済んでいます。というのは最初ですね、多分この業者が自分たちだけでやりたいということもありましたけれども、私は八雲町を絡めるという話をしながらですね、アセスだとか、そういうお金は自分たちのお金でやりたいということで許可を出したと。多分常任委員会なんかには報告はしていませんけれども、許可を出して調査していただいたということになります。すみません。

○商工観光労政課長(井口貴光君) 議長。

○議長(千葉 隆君) 商工観光労政課長。

○商工観光労政課長(井口貴光君) 水利権の関係でありますけれども、平田内川は普通河川ということで町の管理になりますので、町長が水の利用を許可することで水利権はクリアということで、ご判断していただければと思います。よろしく願いいたします。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) そういう意味で町管理河川で小水力をやるというのは本当にすごいことだと思うんですよ。ただ、僕も記憶は定かではないんですけども、環境アセスなんかも常任委員会に報告、もし今の答弁のとおりされていない中で民間企業が環境アセスをやっていることを町が許可していたということになりますと、変な話やっぱりちゃんと常任委員会の、先の話も含めて報告

してやっていったほうが、途中で考えが変わるということも、先ほど明らかになった部分もありますけれども、やはり町長が町民に対しての説明を民間企業の経営者の感覚でついつい省いてしまうおそれがあつたとしても、議会に説明をしておけば町民への説明責任は議会ですって、変な話そういう逃げた方もできると思うので、議会にちゃんと報告しておくことも危険回避というか、我々も責任を果たさなければならぬ。是非そこは抜きなく、よろしくお願ひしたいと思います。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 本当に今、議員の皆さんにですね、常任委員会のアセスが始まる時に説明しておけばよかったかと反省しております。これからはそのことは、始まる時には、常任委員会並びに委員の皆さんにお知らせしながら進めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

○11番(斎藤 實君) はい。

○議長(千葉 隆君) 斎藤議員。

○11番(斎藤 實君) 会社自身はね、清水建設なんかは特に全国展開して小水力よりまだ大きい水力発電を手掛けておりますので、そういう点は心配していないんですけども、ただ、町が出資することによって、やっぱり政策過程で時間かかる部分出てこないのかな。逆に町の出資、各企業の皆さん困つたなと思つてないんですか。やっぱり町とすれば今、話されたように、議会の報告も必要な部分も出てくるだろうし、決算につきましてはね、20%ですから報告義務はちょっとなくなるんですけども、そういう部分で企業の皆さんどうなのかなって感じ、3セクの関係で、私は特にそこのところだけを心配するんですね。民間企業としたら事業を急ぐことになるんじゃないかなって感じを受けるんですけども。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 斎藤議員さんおっしゃっているとおりですね、このこれから事業を始める株主の皆さんは町が入ることを嫌っています。嫌っているということは、やはり先ほど言ったとおりですね、本社は熊石に置くという話をしてもですね、SDエナジーさんの例を例えたら、●●置いて、人を●●置いて、本社機能は札幌にあるということになりかねないと。やはり、そこはきちんと意見を言つて、熊石に雇用が生まれるようにですね、必ず人をここで雇えと。そして事務所をきちんと作れということも話しながら、先ほど言った清水建設さんや三菱さんが入っていますけれども、我々は株主で2番目でありますので、地元の業者にお任せしてと。さらに先ほど意見もありましたとおり、これを維持していくというのはメンテナンスがかかります。電気関係者なのか、さらに工事関係者も、熊石の方々がメンテナンスができるように、年間を通して少しでもお金が入るようなことも我々として、株主として意見を言えるということで、斎藤議員さんがおっしゃっているとおり嫌がっています。ということでお願ひします。

○議長(千葉 隆君) ほかに。

○3番(横田喜世志君) はい。

○議長(千葉 隆君) 横田さん。

○3番(横田喜世志君) 総務常任委員会に出たときも言ったんですけども、斎藤議員さんに答えた、嫌がられるような出資するくらいだったら自前でやったほうがという私は思いがあります。町外の企業に利益を分配している、することになるんです。それだと自前であればこの利益、年間

稼ぐ収入が八雲町の利益になるわけです。そういうことを考えたら、八雲町自身で小水力発電をやったほうが、後々、さっきも出ていたように、20年後云々とかというのを全部出資した会社と話さなくてもいいわけですね。八雲町の単独の発想でできるし、もしくは八雲町の新電電を作ることが可能になってくると思うんですけれども。

現実、そのさっきも町長はメンテナンスやらなんやらと言っていますけれども、小水力は1回設置しちゃうとメンテはほとんどかからない。ほかのやつよりはかからない。たとえば、中ではソーラー発電、ソーラーパネルを設置してやっている人達もいるわけです。それで現実にソーラーパネルを付ける中で業者と、そのお客さんがこの程度の収益が見込めますよと。それでローンを組んで設置して、それで10年なり15年で投資分を回収して、残りを自分の利益にする訳です。

それから言うところの部分で、出資合計なんかが出ていますけれども、この部分だって、かなり町単独でやれば利益のほうが断然多くなるわけです。それでなおかつ事業による効果という部分も、町が単独でやったって変わらないでしょ。出資したからこれができますよじゃなくて、町がやれば当然できるという私の意見があるんですが、そういう部分はどうなんですか。設置するにはお金がかかるにはかかるんでしょうけれども、建設費用はね。それはないわけではないから。10年11年もすれば元が取れるんですよ。それで残り10年まるまる利益になるんです。そういう考えにはならないんですかね。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 横田議員ですね、確かにこの数字だけ見てやるとですね、町単独でやったほうが利益が出るのはもっともだと思います。ただ町も利益を上げるのが目的でありませんし、さらに町でやるといっても、職員にしたらこの小水力のノウハウがあるかといったらありません。それと民間で、町内でですね、この小水力やれそうなところと組むということもあるんですけれども、この小水力と一緒に組むようなところがありませんので、これは小水力のノウハウを持った方とやるのが一番ですね、先ほど言った熊石地域の人を雇用していく、さらにメンテナンスが少ないといいますが、少なくともありますので、その中で雇用が生まれたり、いろんなことができます。という事を考えると町のリスクを背負うということもなくしながら、私はこれが最大限のやり方だと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○3番(横田喜世志君) はい。

○議長(千葉 隆君) 横田さん。

○3番(横田喜世志君) 以前テレビでやっていたんですけれども、大昔に自前で小水力発電をやって、地域の有名になった人がいます。その人のところだって、電気が来るようになってからでも、現実それはまだ使用可能な状態になっている。という状況で水力発電を電気の無い時代から使っていたというテレビを見ました。そういうのを見ると、取水の管理と発電機の管理くらいなんですよ、ほとんどが。建設してしまえば。その分野というのは取水口は地元でできますよね。発電機といったら買ってあげればいい。それで現実にそれだけやれば利益が確定するわけだから、なぜ5社も6社も関係しなければいけないのか私にはわかりません。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 先ほど言ったとおりですね、町が単独でやるのは先ほど言ったとおり、職員にそういうノウハウがありませんし、メンテナンスが、横田議員は簡単だという話ですけども、私たちはまだ理解していませんので、小水力が隣の町やここにもあるということでもありませんし、さらに太陽光みたく、ある程度普及しているものではありません。

本当に先ほど言ったとおり、北海道で初めての官民の小水力でありますので、挑戦という意味でありますので、先ほどリスクが少ないと言いながらですね、ゼロではありませんので、これは民間企業と協力すると。それとなぜこんなに出資者が多いのかは私もわかりませんが、先ほど言ったとおり多くの可能性が秘めているんだろうと、みんな興味を持っていると。先ほど言った取締に入らないと、そういう話も聞けませんので、やはり、そういうことも含めて入ってる。八雲町は、先ほど斎藤議員さんからも質問があったとおり、嫌なところに入り込んだということで理解をいただければと思います。

○3番(横田喜世志君) はい。

○議長(千葉 隆君) 横田さん。

○3番(横田喜世志君) 話をちょっと戻して、現実その青年舎なり木蓮なりに町内の業者の発展のためにとって私たちは認めたわけです。そういう部分はわかってると思います。それで先ほど赤井さんからの質問にもあったように、町外業者の部分にこうやって出資するのは、なにかしらのやっぱり指針がないと私もちょっと納得できないんですね。だから先ほどから言っているように自前でできないのかって話には私はなるんですけども、そこら辺は先ほどの答えで、何かしら考えるということでもいいんですか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) 先ほど言ったとおりですね、ルールを決めるのは、この後で協議してまいりたいと思います。それで、何回も言いますが、八雲町の中にですね、雇用が生まれるという、産業が根付く、特にですね、私は熊石地域にこういう、これは本当に少ない人数でありますけれども、雇用が生まれて持続できるものとしたらですね、出資しながら意見を伝えていく。さらにこれからいろいろ計画していますので、その辺についても、しっかりと皆さんと意見交換しながらやっていきたいと思っています。ただ、ルールを作るというのは、先ほど赤井議員さんやいろんな議員さんからありましたけれども、その辺についてはこれから内部的に議論しましてですね、また常任委員会にかけながら決めてまいりたいと思っております。これについてはFITという問題もあってスタートするというご理解をいただきたいと思っています。

○議長(千葉 隆君) いいですか。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) 横田議員の疑問も仕方ないのかなという部分もありますけれども、僕はこれは、いわゆる青年舎、木蓮で経験したことを活かしているんだと思います。勝手知ったる商売でありながら、要所要所にどんな人材を配置するかで、この1年、非常に迷路のようなところに入り込んだ部分があるという反省を持っているんだと思います。だからここでは、そういったノウハウを持っている方にしっかりと教わっていくんだと。そういうことであれば最大限地元でメリットを出すために、そういったノウハウをちゃんと吸収するという仕組みと人材の配置というか、そう

いったこともちゃんと担保できるかたちで、今、ルールというお話もありましたけれども、早急に議会もちゃんと示してやっていくことが良いのかなと。これは僕は改良版として日々進歩されているんだなと感じました。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) まさしく反省をしながらですね、やっているということで、これはその私も八雲町の中で多分、八雲町というか多くの自治体の中ですね、青年舎、木蓮、小水力に出資しながら会社を作って雇用を生ませっていくという自治体はそんなに多くないと思っております、ただ経験を踏まえながらリスクのないように、また皆さんにわかるようにこれからも丁寧に説明しながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○11番(斎藤 實君) 一つだけ。

○議長(千葉 隆君) 斎藤さん。

○11番(斎藤 實君) 先ほど出資について一つのルールを作ったほうがいいんじゃないかというお話がありましたけれども、町が出資するのにルールを作るという、たとえば条例の一つ作りましただよということになったら、それがすべて今度いろんなものに活用されていくわけですから、その辺のところ、もう少し私は議会全員で議論するところが必要でないかなということを感じるんですよ。特にやはり、国では3セクについてはあまりどんどん進めるということではなくて、最近後ろ向きになっていますから、そういうところを考えますと、少し議会の皆さん、議論が必要でないのかなという感じを受けるんですけれども、これは町長もそうですけれども、議長としてどうということはありませんか。

○議長(千葉 隆君) 一方、なければ町長判断で提案するわけですから。今後。だからその辺も含めた一定のルール作りだとか、各課にまたがる関係も今後、町長も名言しているのは、今後いろいろなかたちで進めて行きたいということ●●と言っているもので、相当近い期間の中にこの出資の部分をしっかり議論していかないといけない課題でありますので、ある程度、案が町側から出していただいた中で議会でも、全体で議論して判断することになろうと思っておりますので、できれば早く直ちに●●、作るしかないんじゃないのかなと。

(何かいう声あり)

○議長(千葉 隆君) だからその案で駄目なら駄目でいいわけだから。条例を作ったら、逆に言えば何でもかんでも出資するような条例になるかもわからないし。やっぱりその辺はある程度、厳しい審査を得なければ出資できないような中身になるかもわからないし、あるいはある程度、将来のリスクについての考え方も、その条例の中で示すことができるかもわからないし。その辺もある程度研究していかないとならないと思うので、内容によっては逆に言えば条例作らないという判断もあり得ると思うので、その辺も含めてお互いに、理事者側もいろいろ調査・研究するし、我々も調査・研究すると。

ただ、直近のもう一つあるのは、それはそれであるんだけど、今、これをどうするかという問題だけは皆さんのほうで判断してということは、これからルール作るんだけど、この件については前例にしないで、前例というか、関連にしないで今回は判断するというのも含めてという、含みを持っているということですね。要するにこれからルール作るわけだから、作ったら、これルールに当てはまらないと。そしたらそれはおかしいということではなくて、今回はそれぞれがルール

なくてもこれが良いのか悪いのかということの本会議でそれぞれ判断するというところで進んでいくんじゃないのかなと思うんです。だいたい理解できましたか。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地さん。

○7番（倉地清子君） ちょっと町の説明が全然私にはまだわからないんですけれども、単純に今この予定を見ると補正予算が12月になっているから、もし議論をするのであれば、間に合わないスケジュールになるわけで、急ぐのかなと。すごく画期的なもの、事業としては凄いなと思ってます。ゼロカーボン北海道、配当があつたりとか、雇用が生まれるとか、期待がすごく大きくて素晴らしいんだけど、そのところをきちんと整理してからじゃないと、持ってくる期間が短いのかなと思いました。

○議長（千葉 隆君） 要は現実的にルールを作る、12月にはルールを作ることができないと。ある程度調査したり。だから、今回の関係については出資するということは前例にしないで、それぞれ判断するというところにしか実際ならないんじゃないのかなと。それとも。

（何かいう声あり）

○13番（黒島竹満君） はい。

○議長（千葉 隆君） 黒島さん。

○13番（黒島竹満君） この議論については、もう一回、議員間でしっかりと一人ひとりの意見を聞きながら議員の中で協議したほうがいいんでなかろうかと思うんですけれども、いきなり、今どうのこうのと言っても、この場では多分結論が出ないと思いますので、近いうちに本会議前にですね、議員間で協議するというのでどうですかね、皆さんね。

○議長（千葉 隆君） いずれにしても町側が検討機関はどの程度なんですか。ルールの検討に入るというんですけれども、調査したり研究したりするのであれば、どの程度の期間が必要なんですか。

○町長（岩村克詔君） あのね、検討するには検討しますし、ただ、やっぱり。

○議長（千葉 隆君） これとは関係なくしてだよ。

○町長（岩村克詔君） この件に関係なくしてでしょ。

○議長（千葉 隆君） ルールを作るのに。

○町長（岩村克詔君） この件は上程するというのでいいんだよね。検討するのは、我々も検討しながら常任委員会に、まだ今日初めて我々は受けましたので内部的に議論を深めながら意見を言えるものをもって、常任委員会に揉んでいただくと。それを持ち帰りながら何回かキャッチボールしながら今度、全協にかけるということになるんだろうなと想定します。いいですか。

○議長（千葉 隆君） できるだけ早く作業したいけれども、時間は経過するという事だけ、押さえていただいて、この小水力の関係については、これも副議長のほうからお話があったので、ある程度、議員間討議してから理事者のほうにまた報告しますので。あと皆さんのほうから、なにかありませんか。いいですか。これで報告事項は。あとないですか。報告事項。

○町長（岩村克詔君） 12時半も過ぎましたので。もっと話したかったんですが。

○議長（千葉 隆君） いいですか。ありがとうございます。

（何かいう声あり）

○議長（千葉 隆君） 理事者の方、どうもありがとうございました。

それではその他ということなのですが、今、町長報告事項ということで（１）（２）報告されて、それぞれ理事者に質疑しましたけれども、できれば今日中に、まず結論が出るのか出ないのかも含めて議員間の協議をしていきたいと思っておりますけれども、時間も時間ですので、いったん休憩して、昼食取っていただいで行いたいと思っておりますけれども、よろしいですか。なければ1時半再開ということでよろしくお願ひいたします。

休憩
再開

◎ その他

○議長（千葉 隆君） それでは午前に引き続き全協を再開いたします。

それでは（１）熊石国保病院の建替えの進捗状況について、午前中に町長にも出席いただいて理事者の考え方も一定程度聞きましたし、一定程度の考え方を持たなければならないと思っておりますので、今後、どうするかも含めて皆さんの意見を聞きたいと思っております。ただ、町長も、町民の皆さんの意見も聞かないと具体的にまだどうだということは言えないみたいなので悩ましいところですけども。

○11番（斎藤 實君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 斎藤議員。

○11番（斎藤 實君） さっき昼前にいろいろ議論出たんですけども、これまで議会の中で検討されてきて、今年度の3月、新年度予算の中でも実施計画の予算が計上されて議決されたわけがありますから、私はいろんな経緯があったとしてもですね、議会として議決したものをですね、ここでまたどうこうということは、逆に町民から議会全体がおかしいんじゃないのという捉え方になるのではないかなと、このように思いますし、町長も診療所の問題については、必ず診療所にすることではないということも話しているわけですから、町民と懇談をして結論を出したいということですので、それをまず待ちたいなという感じは私自身お持ちんですけども。

○議長（千葉 隆君） そのほかに考え方はありませんか。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○5番（関口正博君） 私自身は先ほども申し上げたとおり、もう一度しっかりとした検討が必要であろうという意見に変わりはありません。手続き的に、一度認めたものではありますけれども、手順はちょっと僕も指導いただかないとわからないのですが、それを一度テーブルの上に戻す。そのうえでしっかりとした議論をする。そちらのほうの意見として述べさせていただきたいなというふうに思います。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） 議会として考え方を変えたわけではなくて、提案者の町長が、予想外というか、あつてはならないんですけども、考え方を変えたということなので、町長のほうで熊石の人達と話し合つて今後の進め方を考えてみるというのは、100歩譲つて、そうするならちゃんとも

う一回提案してくださいとなるんですけれども、僕たちのほうで議決に関して何か変えるということは一切必要ないのではないかと思いますけれども。

○11 番（斎藤 實君） そのとおりだ。

○8 番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8 番（三澤公雄君） それで町長の提案が、ちゃんと筋道、段取りを経て変えてきたらもう一度それに則って、いろんな議員の考え方を表明するというかたちになるとは思いますが、今の段階でこちらのほうから、議決をなかったことにして議論するということにはならないんじゃないのかなと。この進め方から行くと。僕たちのほうで議決をひっくり返す根拠は何もないと思うんですけれども。

○議長（千葉 隆君） いろいろ意見があると思いますけれども、一応、所信表明で書いていた部分、熊石国保病院の縮小について検討すると。だけどその前段のところは前提にしないという話だから、所信表明は変わるということ。今の時点でね。変わってるから、逆に言えばもっと玉虫色になって、検討したいというふうに出てくるかもわからないしね。その何床にしたいとか減少したいということではなくてそのものについて時間をかけてやりたいって出てくるかもわからないし、なかなか確信を持ってない。町長も確信を持ってない部分も多いから、俺たちも確信を持ってない部分がある。

だからあまりここでというよりも、12 月の中とか年内までに住民の意見だとか、それから審議会の人達と話をして、一定程度の考え方を議会のほうに示してくださいっていうふうにするのがオーソドックスというか、どうですかね。それからその内容について町長も検討するなら、それを受けて検討するのか、それとも議会でちゃんともう一回違う方向で考えるのか、従来どおりでいくのかは、それを聞いてから判断しますか。

○11 番（斎藤 實君） それが一番ベターだと思います。

○議長（千葉 隆君） そしたら期限はいつくらいに。結論じゃなくてどういうふうに関後行くかという道筋だけでも。審議会っていつやるの。

（何かいう声あり）

○8 番（三澤公雄君） だって熊石地区の町民にしてみれば、私たちの意思表示はもうしたんだという思いでいるからさ。町長のほうで具体的にスケジュール決めて、積極的に動いてもらわないと、熊石側にしたってさ、もう変な話、議会にも期待される部分があると思うんですけれども、僕たちとしては先ほど言ったように、こちらから何か 45 床に対して変えることは何もないと思いますので、町長にしっかりとスケジュールをもってアクションしてもらおうということは、今、この場でまとめたほうがいいですかね。

○11 番（斎藤 實君） 今の時点でそれよりないですよ。

○12 番（能登谷正人君） はい。

○議長（千葉 隆君） はい。

○12 番（能登谷正人君） 私はもっと過激で、先ほども言いましたけれども、そういう生ぬるいことではなくて、2 年前からいろいろやってきて、3 月定例会に出された所信表明を皆さん見ましたか。それにはあらゆるところに国保病院改築しますって。そして今回当選したら変わってきてると。これで町長が変わった時点で、新しい町長がそういうことを言うんだったらわかる。そしてなおか

つこの選挙終わった後に新しい議員が入ってきたと。それでその人がそういうのはちょっとおかしいと。私はそう思うというのであれば私はわかる。

だけれども、今まで2年間も皆さんと議論して、そしてようやく町長が言うとおりにOK出した我々現職も議員がね、出してくる町長もおかしいし、我々反対する議員もおかしい。何で2年間も実施計画まで出てくる中で反対しなかったの。駄目だってそんなことだったら。さっきも言ったけれども、笑われるよ。ころころころころ心が変わったら。今言うみたいに再度繰り返すけれども、新しい町長が、俺の考え方と変わっているからって撤回するのであれば、あるいは先送りするというならわかるけれども、議員もそのとおり。我々ここにいる13人がOK出したんでしょ。それなのにそういうことやるということは時間の無駄。町民の人たちみんなに笑われる。何でその時に、繰り返すけれども意見を言わなかったのか。だって町会議員だったら頭の中は人口面のことなんかは100%わかっているはずでしょ。熊石でも落部地区でも。だからその時、なんで立って議論しなかったの。なんでみんな全会一致で賛成したの。

これまた今、町長が熊石地区に入って町民の意見を聞くって、さっきも言ったとおり熊石地区の町民の方々の要望書を見ただけで、結果が出てるんですから。だから1,556人のほかに、さっきも言ったけれども、来ていない人方がさっきいろいろ言ったけれども、その人たちがいると100%なんだわ。そういうこともわかってほしい。だから地域の要望しないものをやるというのは、地域が要望したものを町長がやると言っていて、そしてさっき自分も、町長も言ったけれども、3期目も無投票だったらなんか舞い上がったって。この辺はちょっとやっぱり、もうちょっと落ち着いて物事考えてほしいと。そういう思いは十分私もわかってる。

だから同僚議員が今、その町長が熊石地区に行って話をした結果、あきらかに町長診療所がいいという人はゼロなんです。誰もいない。結局、無駄な時間を費やすべきではないと思う。だから議会改革のことで物事を何でもスピーディーにさ、間違っただけなら間違っただけよということで、スピードをもって物事を決めていきましょうよ。それが議会改革になるだろうし、議員の統一した意見にもなると思う。当然、物事には賛成、反対がある。それは100%私もわかってる。でも多数決とったらどうなるのか、そういうことも含めてね、いたずらに議事を騒がせてほしくない、あるいは町民を騒がせることはしてほしくない。これは議長経験者として一言言っておきたい。以上です。

○5番(関口正博君) はい。

○議長(千葉 隆君) 関口議員。

○5番(関口正博君) 僕自身、本当に熊石の人たちに申し訳ないと思っています。一度認めましたから。ただ、能登谷議員が言うようにひねり潰していただいて構わないです。僕は診療所を求めているものではありません。熊石の医療にとって最善の方法の建て方であってほしいと願っているだけです。僕は決して診療所化を求めているわけではないです。そこだけはしっかりとわかっていたきたいですし、まだまだ経験が浅いんですから、いろいろ勉強したいですけれども、思いは熊石の医療の将来に繋がりたい。それだけです。熊石の方々の声も十分わかっておりますし、できることから本当にそのように建ててあげたい。

しかし先ほども申しましたけれども、その先の議論には八雲総合病院の問題もある。これは熊石だけの問題じゃないんです。熊石町民の思いはよくよくわかります。できればそのようにしたいです。ですから、僕は僕なりにこれ会派で示し合わせたわけでもないです。僕個人の意見ですから。ひねり潰していただいて構わない。しかし僕は訴えさせ続けさせてはいただきます。これがもし気

に障るのであればしょうがないです。申し訳ないですけども、それは勘弁願いたい。会派の総意ではなくて僕個人の意見として、この医療の問題というのは八雲の非常に大事な部分だということ。これが僕なりの、1期やってみての感想でありますから、先ほど申し上げましたけれども病床数の問題ではなくて、もっとしっかりと八雲町の医療を、ここをきっかけにきちりと考えたいという思いの表れでありますので、そこはご理解いただきたいと思います。何回も言います。診療所化を求めているわけではありません。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12番(能登谷正人君) 関口議員さんそうおっしゃいますけれども、私に聞こえるのは、診療所化やむなしではないですかと。人口減とか10年後のことを考えたら。それは当たり前の話でしょっていうふうに自分には聞こえてくる。だけれども45人、診療所化をしない。私の希望はそうだと言いつつ、じゃあ45だけではなく99床のうち、今入院しているのは60人ちょっと。そしたら45床じゃなくて60床にしますか。熊石の医療を守るんだったら60床にしますか。

○5番(関口正博君) はい。

○議長(千葉 隆君) 関口議員。

○5番(関口正博君) 先ほども申し上げましたけれども、病床数の問題ではないです。病院の負担を考えたときに、これ老人施設、特養の方まで考えた時に、その熊石との討論の中でもあった要介護1、2ですか、その辺の施設も当然必要であるでしょうし、介護施設と医療はしっかりと連携を保った中で、熊石の医療介護を守るという、そのような施設であってほしいと思っていますし、僕はそれが熊石には必要だと思いますし、熊石病院だけの問題ではないということを考えれば、この議論はもっともっとしっかりと、本当に申し訳ないと思っています。でも、そのような議論が必要になるのではないかなと。

先ほども申し上げましたけれども、これは僕の意見でありますので、皆様の意見を聞きながら当然、自分自身なりに、いろんな答えを導き出していきたいという思いがありますので、本当に知恵を議員みんなで出し合って、もう少し、スピーディーにというのはもちろんです。熊石の病院もどんどん傷んでいきますから、早い議論というのも当然必要ですし、時間を割いてでもですね、そのようなかたちになればいいなと思っていますし、それを求めたいと思います。

○8番(三澤公雄君) はい。

○議長(千葉 隆君) 三澤さん。

○8番(三澤公雄君) それであれば3年度予算で出した実施設計と、実施設計を急いで出させるという、あれはたまたま45床ということがくっついていきますけれども、熊石の医療を守る、医療全体のことを考えた基本計画に則って実施設計予算が出しましたから、速やかに令和3年度中に実施設計を出してくれというふうに、もう一度、全会一致で求めるという筋になるんじゃないでしょうか。それでいいんじゃないですか。

○1番(赤井睦美君) はい。

○議長(千葉 隆君) 赤井議員。

○1番(赤井睦美君) 私たちが基本構想と基本設計を貰ったときに、45は45でいいんですけども、ゆくゆく考えた時に、建て方によっては今後45床全部入院患者ではなくて。要介護1、2の方たちが使えるような施設に変えるという、そういう頭をもって調査してちょうだいということは

お願いしてるんです。でもそれ全然返事がないまま実施設計出されてもちょっと、その辺のお返事をいただいてからでないと。ごめんなさい、実施設計ね。実施設計で出てきちゃったらもうあまり変えられないですよ。基本設計のうちはいいいですけども。だからそこはちゃんと報告してほしいなというのがあります。

○8番(三澤公雄君) 実施設計を作るという予算ができているわけだから、実施設計案が常任委員会に示されて、そこでまた議論ができるんじゃないですか。

○1番(赤井睦美君) その前に欲しい。

○8番(三澤公雄君) だから予定どおり町に進めさせるということで、向こうにボールがあるということがはっきりわかっていいんじゃない。

○議長(千葉 隆君) すみません。通常、実施設計やったら、あと工事発注するだけだからというのが通常だから、そこでもう一回揉んでどうのこうのという話にはならないんじゃないですかというのがきっと、文厚の委員長だから。その前その辺の考え方も、設計だったら壁だけ軽くすればいい。壁の部分を鉄筋コンクリートにするのか木でやるのか、その辺わからないけど。設計変更が可能な、あと作れるような実施設計にしてくださいという部分を要望して、そののところはどうやって今後、5年先なのか10年先なのか転用できるような議論は引き続きやってくださいということもできるだろうし、その辺も含めて皆さんで。

でも実施設計やったら、工事。だって実施設計やったら変更するのにもう一回実施設計やらないとないから。2回やらないとないから。そういう感じで。

○13番(黒島竹満君) 委員長が言っているとおり、基本設計でそうやって言ってるわけだから、そのあとの、町のほうから回答が出てきてないわけだから。まずはそこを1点聞くのと、それとなぜ変更しているのかという町長の考え方を出示してもらわないと前に進んでいけないと思う。この2点でね、持っていかないと。そしてあと関口君が言うのは、そのあとの、それこそ病院の経営の関係。運営の関係だから。だからその運営の中で今後どういうふうにしていくのかということで、改革できるものであれば改革していけるように話をしていけばいいと思うんです。その2点を先に理事者側に出してもらって前に向かって、今とにかく45床については議会で決議されているわけだから。この部分についてはこれでスタートしてくれて話でいかないと、いつまでたっても進んでいかないと思います。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。そのときに関口さんは病床数にこだわらないというんだから。45で行くの。45で建設するって。まずね。そこは堅持するんだよ。それで実際に45の実施設計を作ってもら。それで建替えたときに45に進むわけだから。だからその、ただ将来像の部分で算段がどうなるかという部分は、引き続き検討課題だという感じで駄目ですか。やっぱりもう、そうであればお互いにというわけではないけれども、45で持っていけると。

○8番(三澤公雄君) だから議決したものを尊重して進めて行く。

○議長(千葉 隆君) だから今までと変わらないよと。

○5番(関口正博君) あともう一点いいですか。

○議長(千葉 隆君) うん。

○5番(関口正博君) 建て方としてRCというのが基本線かと思うんです。RC、建て方としてね。基本構想の中でもきっとRC造りという部分で書かれていたと思います。RC造りは用途変更をかけるときに非常に大きなコストがかかります。その辺は理解できますか。RCはコンクリートで全

部囲んでしまうんだけど、その部分をたとえば用途変更が可能なような建て方にするとか、それであれば鉄骨造りにするとかっていう議論もできるわけは、それ副議長わかっていただけますか。

○13 番(黒島竹満君) 最初から言うのは委員長が言ったとおり、できる結論が出てないんだから。3階部分の造り方というのは。そこのところを見ながら用途変更でもなんでもできるような方法で最初から考えていけばいい話。だから結局今、関口議員が言うように将来のことを考えてということだから。あくまではそれ将来の話でしょ。結局今の福祉の部分もということについては。だから建物建ってからでも徐々にやっていけるわけでしょ。そのうちに町長だって変わる可能性も。今期1期でやめるって言ってるんだから。

○12 番(能登谷正人君) それだってわからない。

○11 番(斎藤 實君) 委員会をやっている最中にそういうことを言うべきでない。

○13 番(黒島竹満君) 町長ははっきり言ってるから。

○12 番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12 番(能登谷正人君) 確かに関口議員が言うのも心配してくれているから言うのであって、よくわかるんです。45床にこだわらないよと。それでこだわっているのはじゃあなにかって思って今いろいろ考えてみたら、今の発言で建物にこだわっているのかなって。

○5 番(関口正博君) そういうわけじゃない。

○12 番(能登谷正人君) それじゃあね、さっき言ったみたいに、45床にこだわらないでいいんだよというのであれば、さっき俺がこう言ったこう言った、じゃあ50床60床でいいのかいって話に広がってくるんだけど、そういうことは考えていない。我々は議決した関係上、45床は守ったほうがいい。これが本音。それで駄目だという理由は、経験上、今まで30年間やった議員の経験上、何回かぶつかるのは特別災害、災害があった場合、八雲で今とんでもない災害に遭ったと。だからこれにお金を使わないとないから、こっちのほうの計画されたものは、ちょっと先送りだよと。あるいは塩漬けだよって、これだったら話はわかる。だけど今の八雲町は財政が豊かで町長が100億貯まってるんだって。なんかで使わないと総務省からペナルティが来るから、なんかなんかって騒いでいるのが事実。

ですから国保病院のことをいろいろ議論するのであれば、もっとエネルギーを総合病院に使ってほしい。私はね。総合病院のほうに。これだけは言わせてください。それで終わりますから。町の経営じゃなくて上手くいくのには、どこかの医療団体にそのまま任せると。経営を。そういう打つ手、禁じ手かどうかわからんけれども、八雲の町民の方には病院がなくなるわけじゃないから。病院があるんだから、それがどこかの医療法人にお任せするという、そういう方法もあるんじゃないですか。

たとえば、そこには当然、誘致するからには毎年3億なら3億、今7億だ5億だとやっている中から3億なら3億、毎年、病院開設には公金来ているんだから、その分を全部あなたたちにあげますって。そういう方法もあるんです。だからもっと熊石の小さい病院のことではなくて、こっちのほうの大きい総合病院のほうにエネルギーを使ってほしい。自分はそう思います。

○5 番(関口正博君) はい。

○議長(千葉 隆君) 関口議員。

○5番(関口正博君) もちろん今言った能登谷議員の総合病院のお話ですけども、これから総合病院をどうするのかという考えの中には僕も、そのことも頭の中に入っているんです。これからそういう議論をしなければならない。今のままでは総合病院は八雲町単独では維持できないと私は考えていますので、独立行政法人化も全部適用通り越してですよ、指定管理者制度で病院を民間の病院に売り渡すということも、おそらく近い将来きちんとお話をしなければならない。

それで今現在は総合病院として、たくさんのお金を入れていますけれども、維持していくために今の現時点で全力で考えなければ、これは能登谷議員が国保病院を守ろうとしているのと同じです。私もそういう考えです。それで今、総合病院を活かすために国保病院と総合病院の医療連携というのは絶対に欠かせない。これは私は前に文厚の委員会の中で、医療圏の医療連携を申し上げたときに、これも斎藤議員と能登谷議員に怒鳴られましたけれどもね、覚えていますか。それはやっぱり南檜山の医療圏の人たちはもっともっと広く深い議論をしてるんです。物凄い危機感を持っています。医療圏として。函館に近いにもかかわらず。その中で熊石単独、八雲単独の話しかできていない。今回のケースだってそうですよね。八雲総合病院を活かすために、国保病院を活かすためにお互いの医療連携は絶対に必要であって、それは最初から言っているとおり、国保病院の病床数の問題ではないと思う。スタッフだってこれから総合病院から熊石病院に派遣する。逆もありきだと思っています。

そういうことも含めて熊石だけの議論ではなくて、総合病院を含めた議論の中で私はこのようなことを申し上げている。そういうことなんです。ごめんなさい理解していただけるかわからないです。でも、僕はこの国保病院の先に、先ほども申し上げましたけれども、八雲総合病院をどうするか、これが僕は本丸だと思っております。八雲町にとっても本丸だと思っておりますので、そこにしっかりとした準備ができるように、今回の国保病院の問題を通してしっかりと考えてまいりたいと思っています。以上です。

○12番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12番(能登谷正人君) そういうふうに答えが返ってきたなら、ちょっと議長に聞きたいんですけども檜山管内の医療圏の、国が打ち出したいろいろと統合して。

○議長(千葉 隆君) 今、地域医療法人というのを、檜山では北海道で1例、全部で7つくらいあると思うんですけども、その一つで、檜山で各国保病院と道立病院も巻き込んだ中で法人を作って連携しているというのが現状だと思います。

○12番(能登谷正人君) それから国で打ち出した方針の、日本全国から同意が出て全部皆さんそれ、さらになったというのは聞いてない。

○議長(千葉 隆君) 聞いてない。まだそれで調整するという話。

○12番(能登谷正人君) 確かに国からはそういうふうに医療の問題を出たとき、おそらく皆さん●●けれども、そういうことがあった。これは事実なんですよね。だけれども日本全国からブーイングが上がって、それをやめたというのは政府の考え方。だから今それが檜山管内で続けるか、それはちょっとわからないんですけども、要は医療連携、医療連携というけれども、開設者がそういうことを言うのはわかるんですけども、管理者、いわゆるその院長先生とか、そういう人たちがうんというかどうか、問題は。だから我々関口君が当選してくる前は、総合病院のスタッフが接遇が悪いという、すごく悪い評判が、赤井さん知っていますよね。これ赤井さんが一般質問で言

ってた。接遇が悪いからということで大きい問題になった。それで議会でも議論した。それで八雲の総合病院のスタッフを熊石に研修に行かせるというのが、行かせたほうがいいというのが当時議論された。ところが向こうの開設者は、こんなもの自分たちでいっぱいだからそんなもの受けられないって、そういうのが過去にあった。

だから医療連携、医療連携というけれども、今回の問題に関して院長先生とも十分話し合いました。2回ほど。全然そういう医療関係のことは全然これっぽっちも思っていない。ですから、私は特に強く言われたのは、私は管理者ですからと。ですからそういうことをするのであれば私はここにはいませんからと。何でほかの病院まで面倒見ないといけないのかって。こういう今の開設者の意見。

○5番（関口正博君） 藤戸先生ですか。

○12番（能登谷正人君） あとで調べてみて下さい。

○議長（千葉 隆君） 管理者ね。

○12番（能登谷正人君） ごめん。間違った。管理者。開設者は町長ですね。それを管理されて任命を受けているのが院長ですから。ですから医療連携のことも話をしました。そしたらそういうことも。ですから45床、これだけ物議醸し出しているんですから、私は、能登谷さん、65歳で定年ですけれども、それまでちゃんと勤めて、それで65歳以上になったら町で開設者がいないのであれば、辞めていいというのであれば辞めますけれども、できればあと5年間、70まで勤めたいと。そこまではっきりと言ってくれた。

ですから医療連携という言葉がですね、全然向こうの関係は全然思っていないんです。ですから、だけれども今の院長は熊石の患者さんには必ず自分のところで処理できない手術なんかがあれば江差に行きますか、函館に行きますか、八雲に行きますかって必ず聞いて、本人の希望のところに。これも事実です。ですから医療連携はうまくいくかどうかはちょっと疑問。理想ですけれどもちょっと無理ではないかなというふうに自分では思っています。以上です。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地さん。

○7番（倉地清子君） ちょっと安心して聞かせてもらったんですけれども、ちょっと人口減少のこととかは、先々減っていく中、45床ってどうなのかなって思っていたんですけれども、議決してしまったことだから、やっていく方向なんだという見方だったんですけれども、赤井議員さんから話があった長期療養型、ゆくゆくはそういう併設のこともどうなんですかっていう、そっちの方向でいけるかという案を聞いていて、その答えが返ってきていないというのであれば、その答えを早く聞きたいし、それでそうじゃないと進んでいかないわけだから、でも明るい話を聞かせてもらってありがとうございます。なので、その答えを聞かせてもらい45床というのでいけたらすごくいいのかなと思います。

○11番（斎藤 實君） はい。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん、

○11番（斎藤 實君） 先ほど赤井委員長からいろいろ話がありました。それで今、7日の日、金曜日の日か。委員会で議決をとって病院との懇談もするという方向性になっていますので、先ほどメモの中に聞きたいことの一つとして、先ほど赤井委員長がおっしゃった3階の部分の、まだ最終結論になっていないので、その辺のところをしっかりと聞いて、委員会として聞いてみる必要性が

あるんじゃないのかなと思いますので、またあと2点ほど何か考えておりますので、その点については委員長のほうから、きちっと聞いてもらったほうが一番ベターかなと思います。

○議長（千葉 隆君） 調査は調査としてやってもらいたいんですけども、今、今日報告を受けて、町長のほうに、どういうふうな考え方を伝えるか、逆に言えば伝えないか。だいたい皆さん議論尽くしましたね。いいですか。

おおむねは、基本構想・基本計画、そして実施計画ということで進んできたから、この方向性、変更は議会としては堅持します。ただ、将来の見込み等については、今後、3階の部分も検討していかなければならないので、実施設計には、そこの3階の部分の変更をかけられるような考え方を早期に示してくださいと。ということで、あと追加するような文言はありますか。そういうことで町長には議長で副議長で行ってお話させてもらいますけれども、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） そしたらそういうことで今のやつ整理してください。

ちょっとあと次に、あとで最終的に。それで次に平田内川小水力発電会社設立に対する出資についてですけども、これについても皆さんのほうから。討論したいと思えますけれども。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） 今後のスケジュール、12月に補正予算とか明確に示されていますので、ルール化の話もありましたけれども、ルール化とは別個に切り離して、今回の平田内川小水力発電の出資については、基本的にはこの考え方で進めて行ってもらう。あといろんなところ詰めなければいけないのは、この場で議論はされてもいいと思うんですけども、ルール作りとは別個に切り離すっていうことは、ここで明確にできると思うんですけども。

○11番（斎藤 實君） 私もそれでいいかなというふうに。12月定例に上程するというものですから、それはそれでいいのかなと。ルール作りはもう少し議員間でも議論はやったほうがいいのかなという感じは受けているんですけどもね。

○議長（千葉 隆君） そしたら表現の仕方ですけども、今回の出資については前例としない。今後の出資については早期にルールを作っていただいて、委員会等にかけてながら議会で十分協議して決めてもらう感じ。

○8番（三澤公雄君） そうですね。早期というか次の出資を考えているのであれば、提案される前にルールを明確にしてもらいたいというのが。

○議長（千葉 隆君） 次の出資までにはルール化すると。

○8番（三澤公雄君） はい。あと特別目的会社ということなので、目的の明確化をちょっと議員間で今、話を詰めていったのも一つの方法かなと思いますけれども。この案件に関して。ルール化については、これ●●。

○議長（千葉 隆君） そしたらひとつは今回の出資については前例としないで、出資するしないの部分では前例としない。次にルール化についても、局長のほうで文書を整理してください。それで目的会社について今回の小水力の関係に絞ってかい。

○8番（三澤公雄君） いや、たとえば、これを読むと熊石地域における再エネ資源を活用して小水力発電事業を展開するために設立する特別目的会社って、改めてこれを読むと、地域も限定されているし、やる内容も決まっているので、良いのかなって思っちゃう部分もあるんですけども、

あえてこちらで懸念する、議員によってはいくつか懸念材料がありましたから、その辺を詰めて目的に書き出す必要があるなら、こっちから提案するという必要なのかなど。

○議長（千葉 隆君） それよりも、これは出資をするための目的としてこういう言葉の表現をしているだけで、定款出してもらえば目的事業、内容になるから、最低限、定款を事前に議員間のこの判断する資料として、定款の案を議員のほうに提示してくださいと。資料不足だからということができるのかなど。まさか定款も案もないのに会社作るって言わないべ。

○11 番（斎藤 實君） これからだべさ。

○議長（千葉 隆君） 12 月。

○13 番（黒島竹満君） だけど案は作ってるしょ。

○議長（千葉 隆君） 案もないのに。目的はこうだって、それから効果だとか、全然。喋ってるだけになる。ヒアリングだけ。

○13 番（黒島竹満君） やっぱり定款が一番大事だから。それはやっぱり出してもらわないと。資料として。

○議長（千葉 隆君） あと償還計画くらいは書いてもらったほうがいいと思うんですよね。

○8 番（三澤公雄君） そうですね。

○議長（千葉 隆君） いいですか。

○8 番（三澤公雄君） 資料で、常任委員会にもう一回提示するんですよね。

○議長（千葉 隆君） 常任委員会ではやらない。補正予算で出てくるから。それまでに町に説明してもらってるから。補正予算で、審議するまでの資料提供して、皆さん本会議で判断すると。

あとはありませんか。

○8 番（三澤公雄君） 事業による効果で6つ上げてるんですけども、先ほどの質疑の中で一つ確認を忘れたんですけども、例えば水利権とかは許可出しているというお話がありましたけれども、これには利権料というか料金が発生しないものなのかさ。いわゆる町に入ってくる収入が税収と配当が書いてるんですけども、それ以外にあるならちゃんと書いてもらいたいし、あるんじゃないかという聞き方もあると思いますけれども。

○議長（千葉 隆君） 水利権は町。

○8 番（三澤公雄君） 町管理河川なのでその辺の許可は出せますって出したんだっていう話がありましたよね。それ無償でいいのと。ようするに八雲町の事業じゃない。横田さんが言われるように、オール 100%八雲町の事業じゃないわけですから、ほかの出資している会社という、特別目的会社がある程度、町に払うという考え方もあるんじゃないのかっていうのは聞く必要があるんじゃないのかな。逆に求めてもいいんじゃないのかなっていう考え方も。

○13 番（黒島竹満君） 聞いてもいいんじゃないの。

○8 番（三澤公雄君） ね。

○議長（千葉 隆君） あるなしだけでも。

あとはないですか。それでは今の三つの部分について資料提供を要請してよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それではこの件についてもいいとして、（1）（2）の文書整理。

○議会事務局長（三澤 聡君） はい。

○議長（千葉 隆君） 局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） それでは一点目の国保病院の建替え事業についてですけれども、それについては、これまで基本構想・基本計画、基本設計を進めてきておりますけれども、それはこれについては、これまでどおり継続していくということでございますけれども、この施設の将来的な使い方として、以前にも文厚の常任委員会の中で、3階の使い方について、将来的な病床数の変化に応じたその使い方について、要望はしていたんですけれども、この回答というか、考え方が町側から示されておられませんので、これについて早く町側から考え方を出示していただいて、今後、議会として協議していくというようなまとめでよろしいですか。

それから二点目の小水力の出資ですけれども、今回の小水力発電に関する出資については前例としません。今後の出資については、ルールを作るという町側の考えがありますので、そのルールです、出していただいて、それに基づいて議会としても協議していきますけれども、今後、同じような出資がある場合については、事前に早い段階から丁寧な説明をお願いしたいと。それについて議会として協議していきたいというまとめで。

○議長（千葉 隆君） 出資のルールを作る前でなければ、次の出資はありませんよという意味だよね。

○8番（三澤公雄君） そうですね。

○議長（千葉 隆君） 次の出資についてはルールに基づいて、ルールを作ったあとで出資しますということ。

○8番（三澤公雄君） そうですね。

○議会事務局長（三澤 聡君） はい。そしたら出資については今回は前例としませんよと。今後の出資についてはルールを早く示していただいて、議会として協議していくと。

○議長（千葉 隆君） そのできたルールに基づいて協議していくと。

○議会事務局長（三澤 聡君） その結果次第で今後の出資がどうのこうのは結果次第というまとめになります。

○議長（千葉 隆君） そういうことでよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） そのほかありませんか。なければ今日はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございます。ご苦労様でした。

〔閉会 午後2時22分〕